防災教育チャレンジプラン

ノーベルスクール

創造と探究　挑戦と感動

避難キャンプ2012

私たちの学校は、開校３年目を迎え、避難キャンプを実施しました。学校・子ども・保護者・地域と共に防災について共に学び、防災力の向上を目指しました。

平成24年度　防災教育チャレンジプラン参加団体

八千代市立みどりが丘小学校学校支援委員会

連絡先　midori.challenge@gmail.com

そして、わたしたちがキャンプの後に行ったこと。

①わたしたちの考えで、安全マップをつくってみました。

②作ったマップを使って、１．２年生に劇・紙芝居で教えました。

③みんなからは、おもしろいわかりやすいって言ってくれました。

子どもたちの効果大きい

キャンプの感想は？

良かった、楽しかったところ

- ウォークラリーは楽しかった。
- 消火栓は、普段は気にしなかったけど、沢山あることをわかりました。
- 外で作った、ごはんがとてもおいしかった。また、食べたいです。
- 作ったキャンドルで、みんなで丸くなって、発表をして、キャンドルが輝いて綺麗だった。

キャンプ後の課題と成果

①１回の企画ではなく、継続させていく必要
→子どもたちにどう力をつけさるのかが課題

②子どもたちが一連の体験から、何をすべきなのか？何を取り組むべきなのに気づき始めた。

③キャンプを行ったことで、保護者の意識が高まった。（備え・災害協力）

④子どもたち・家族・地域の人とのディスカッションから、確かな絆を感じとれた。

キャンプの感想は？

残念だったとおもったところ

- 夕飯を食べたあとで、夕飯の食事が全員にちゃんと、配れず、食べれなかったこと。あとで聞いてごめんなさいと思った。
→今度は、みんなで「いただきます」をしてから、食べたい。
- もっと、いろいろと手伝いをやればよかった。
（二日目の朝の配膳はぼくたちがやりました。）

避難キャンプに向けてプラン作成

情報収集 → **実　施**

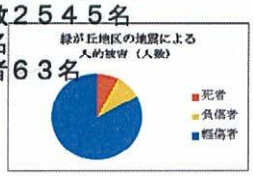
家庭のアンケート実施
各家庭の防災準備について調査
公的機関・企業での災害に対する備えや、協力可能かの調査

日にちは設定し、開始時間については教えず、当日に地震発生というメール配信して、指示書を開封して、避難キャンプを開始しました。

避難キャンプに向けて準備プラン

被害を想定 → **シナリオ作成**

千葉県発表
東京湾直下型から
　地域の被害を想定
建物倒壊数＝少
エレベーター停止＝多
避難者数２５４５名
死者２名
重軽症者６３名



日中家庭にいて、地震に遭い、避難を想定する。たまたま避難した一時避難場所が駅前広場、避難所となる学校へ避難する。

避難キャンプに向けて
学校支援委員会で行った理由は？

【メリット】

①人事異動がない組織
校長先生が主体である場合は、異動したら、そこで途絶えてしまう。

②組織にとらわれない発想
公的ルートのみならず、地域企業に参加協力
（ちばコープ・サイサン・石井食品）

【デメリット！！】

①組織的にはまだ脆弱
最初は、１人からスタート！！
学校も新設３年目であった。

②認知度が低い
学校支援委員会とは？なんだ？

準備での情報収集から得られたものを生かして。

【防災マップ作成】
参加者・協力者の防災意識が高い人たちとの交流によって、得られ情報をもとに、防災マップを作成

①渋滞情報
３．１１の際の渋滞情報

②災害情報
鉄道の高架橋被害、集会施設情報

③他の地区
近隣学校（子供サミット）による、安全マップ、地域子育て支援センターからの情報

みんなで作ったキャンドルをともして、今日の一日を振り返りました。

体育館の「固い床」で初めて寝てみました。

物資の配給は、子どもたちが計算して配りました。

参加者には、修了証を授与して終了。

異常気象・豪雨の仕組みや恐ろしさを聞く

2つのテーマで行いました。子どもたちが中心になって、考えて、発表をしました。

1～6年生、保護者、地域の人も参加

みどりっ子　ミニ集会

①水や食べ物が、みんなで1日分しかありません、どうしたらいいでしょうか？

②赤ちゃんがあるお母さん、足の不自由なお年寄りが、避難しました。私たちは何ができるでしょうか？

特によかったと感じるのは、みんなのディスカッション

初めての試みが、先生が中に入らずに、地域・家族・子どもたち（1～6年生）のディスカッションでした。

①学年単位でなく、全学年で話し合う。
②避難所の問題をだして、話をしていくことで、一体感が生まれました。
③親同士が、子どもたちの意見を引き出して、つなげていく過程で、絆を感じさせていた。

災害はいつくるかはわかりません。

開始時間は告知せず、緊急地震速報をメールにて配信し、開始を宣言

受付をして、①消火訓練

起震車体験から地震の恐ろしさを

身近なもので、応急処置を！！（八千代西高校生被害者役）

ＡＥＤ・公衆電話・消火栓発見ゲームを織り交ぜながら、学校まで避難しました。

避難所開設式　6年生がメインとして行いました。

見たことが無かった、防災倉庫探検

緑が丘自治会、自主防災隊から、防災・もしもの役立つ物などをみんなと、話をして発表！

サラダ油キャンドルを作成しました。

救援物資が到着しました。

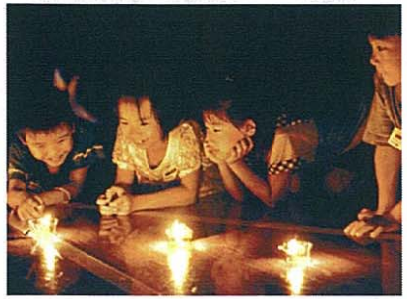
プロパンガスが届き、ガス発電機による照明と、屋外での調理をしました。

ご飯・カレーを作り食べました。

カレー美味しかったな～、また食べたい。普段以上に食べちゃった。

サバイバルキャンプって？

8月3.4日予定



地震があって、とにかく逃げてきたという想定です。（詳細は、６月末日確定予定）

参加した皆さんの一人一人が主人公です。みんなで考えて、一泊のサバイバルキャンプを成功させてください。

普段とは違う、**何もない世界で生活**をしていきます。

キャンプに関しては、必要最低限（水・食料等）の物しか用意をしていません。参加者自身が自分自身で考えて、避難する際の防災・アウトドア用品を**持参**してください。

好評だった、キャンドルタイムも行います。是非期待してください。

参加者だけの特典

もしもの時に。今回の経験が役立ちます。

子どもたちの自立心・協調性を育みます。

幅広い知識を得ていくことで、今後に生かせます。

チャレンジ精神や、コミュニケーション能力が生まれます。

何も無い生活を経験して、今の住生活が恵まれたものと感じて、大事にしていく心が生まれます。

共にみんなで、歩いてみませんか？

Let's try !

平成25年1月作成（予告編）

プラン内容は、変更する場合があります。

考え

作り

話し合う

協力

楽しむ

挑戦してみよう。サバイバルキャンプ

平成25年度　防災教育チャレンジプラン参加団体

八千代市立みどりが丘小学校学校サポートチーム

1人ではできないことが、みんながいることで、できることがある。

災害は、いつくるのかはわかりません。

災害が発生したときには、１人だけではなく、みんなの力を合わせて、多くの人を助け合うことがことが必要です。

いざというときに、自分の能力を、引き出して、危険から命を守らなければなりません。

今回のサバイバルキャンプは、子どもたちや参加した人たちが、自分自身で考えたり、みんなで協力して、キャンプを行います。

チャレンジしよう！

→参加プロセス　まずは、エントリーをしてください。

midori.challenge@gmail.com　にメールを！！

参加登録は、メールで、お知らせください。全員記入

参加人数
参加者名
年齢
学年

【運営スタッフも募集しています。ご協力をお願いします。】

※保護者も参加することが条件で、詳細は、6月にて。
※運営上参加費がかかります。（１人５００円以内を予定）
※定員がありますでご注意ください。（宿泊参加が優先）
※プラン連携のためにオブザーバー参加枠を設けます。

私たちが、期待することは？

私たちは、こんな人が育つことを願っています。
・みんなとチームワークを組んで、行動する
・責任感をもって行動できる
・危険なことをせず、安全に、ルールを守れる
・何もない世界から、作り出す想像力

昨年参加者の感想

子供たちもいい思い出でであり、いい学習機会でした。

本当にありがとうございました。今度はもう少し手伝いができるように致しますね。

最後の集合写真に、撮影が終わった時に、自然と拍手が出たことが嬉しかった。

キャンドルタイム前にみんなで話をしたときに、お父さんが他の子どもの意見を聞いて、褒めたり、子どもの意見から次へと、つなげるようにしてくれたこと。

困難が人を作り出す。

知らない人たちと、一緒に学び、悩み、解決していきます。
津波、煙体験などの災害体験をして、実践的な防災訓練をしていきます。
色々な考え方や、作り出した結果が、子どもたちを大きくしていきます。
目に見えない、絆が子どもたちにできてきます。
さあ、「子どもたち」「大人」が一つ一つ、大切に・確実にステップアップして、みんなとやっていきましょう。

防災教育チャレンジプラン

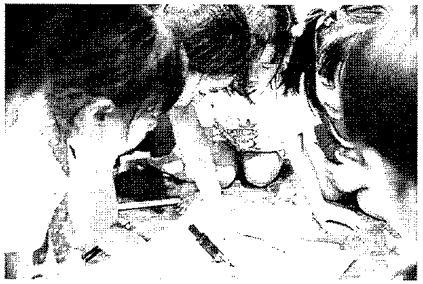
主催：内閣府・防災教育チャレンジプラン事務局

みどりが丘小学校防災アドベンチャー

「みどりが丘小学校避難キャンプ」

平成２４年度実施

8月4・5日キャンプ



作成　八千代市立みどりが丘小学校　学校支援委員会

八千代市吉橋２３５７番地　ＴＥＬ　047(458)1281　FAX 047(458)1282

参加　八千代市立みどりが丘小学校　児童・保護者・教職員・安全担当・保護者会本部

協力　八千代市　総合防災課・水道局・消防・緑が丘自主防災・緑が丘自治会・青少協

東葉高速鉄道・八千代市医師会・八千代西高等学校

企業　ちばコープ・サイサン・石井食品・トライアル

千葉県消防設備協会・八千代市防災設備協同組合

キャンプ企画の主な流れ

【実施内容】

【実施したことによる結果】

防災教育チャレンジに応募	企画することで、地域の防災＆学校力のアップを！かまどブロックベンチ作成
キャンプに向けて被害想定からシナリオ作成	得られた情報防災ｅマップ作成
キャンプ実施に向けて情報収集・協力依頼への相談	地域・市での防災についての状況や懸念箇所の発見
参加、協力団体との合同会議及び連絡調整会議	もしもの時の各機関の対応力・関係間の連携
キャンプ実施多くのプラグラムを実施	子どもや、先生、保護者同士の信頼、地域との関わりが大きくなる
キャンプ結果感想・反省・課題の発見	今後の課題から次へとつなぐ物を作ることに・・

平成２５年２月９日発表プレゼン内容

「みどりが丘小学校避難キャンプ」

第一部（防災ウォークラリー）
駅前広場にて開催

①消火訓練
バケツリレー・消火器
②地震体験（起震車）
③発見ゲーム
ＡＥＤ・公衆電話・消火栓
④応急処置ゲーム
隣接高校の生徒が、
怪我人役で参加

⑤情報取得ゲーム

⑦

第二部　避難キャンプ

15：00　開所式
15：15　防災倉庫探検
15：45　防災クイズ（自主防災隊）
16：00　キャンドル作り・物資搬入
16：30　夕飯作り（カレー・炊飯袋）
18：30　夕飯タイム
19：30　グループディスカッション（避難所運営）
20：00　キャンドルタイム
22：00　就寝（夜間見回り）
翌日6：30　起床・体操
7：00　配膳・食事
8：00　異常気象講話
9：00　修了式

⑧

キャンプの感想は？

良かった、楽しかったところ

・ウォークラリーは楽しかった。
・消火栓は、普段は気にしなかったけど、沢山あることをわかりました。
・外で作った、ごはんがとてもおいしかった。また、食べたいです。
・作ったキャンドルで、みんなで丸くなって、発表をして、キャンドルが輝いて綺麗だった。

⑨

キャンプの感想は？

残念だったとおもったところ

・夕飯を食べたあとで、夕飯の食事が全員にちゃんと、配れず、食べれなかったこと。あとで聞いてごめんなさいと思った。
→今度は、みんなで「いただきます」をしてから、食べたい。

・もっと、いろいろと手伝いをやればよかった。
（二日目の朝の配膳はぼくたちがやりました。）

⑩

そして、わたしたちがキャンプの後に行ったこと。

①わたしたちの考えで、安全マップをつくってみました。
②作ったマップを使って、１．２年生に劇・紙芝居で教えました。

③みんなからは、おもしろい わかりやすいって言ってくれました。
子どもへの効果大きい

⑪

避難キャンプに参加した、お母さん、お父さんからの感想（アンケートより）

1　・防災について、もっと取り組みたい
2　・友達、地域の人と仲良くできるように繋がりを作りたい
3　・自分達で、もっと体験できるようなプログラムをしたい

⑫

特によかったと感じるのは、みんなのディスカッション

初めての試みが、先生が中に入らずに、地域・家族・子どもたち（１～６年生）のディスカッションでした。

①学年単位でなく、全学年で話し合う。
②避難所の問題をだして、話をしていくことで、一体感が生まれました。
③親同士が、子どもたちの意見を引き出して、つなげていく過程で、絆を感じさせていた。

⑬

キャンプ後の課題と成果

①１回の企画ではなく、継続させていく必要
→子どもたちにどう力をつけさるのかが課題
②子どもたちが一連の体験から、何をすべきなのか？何を取り組むべきなのに気づき始めた。
③キャンプを行ったことで、保護者の意識が高まった。（備え・災害協力）

④子どもたち・家族・地域の人とのディスカッションから、確かな絆を感じとれた。

⑭

そこで、来年のキャンプに向けて。

①子どもたちに力をつけさせるために
→子ども中心に、防災キッズ隊を組織
②体験型＆日常用品による
→野外調理・屋外での就寝にも挑戦
③地域、ほかの学校との連携
→自治会・ほかの学校の参加

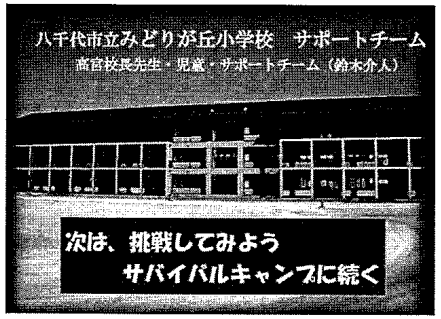
④参加者が楽しんで継続できるような企画
→大声コンンテスト・放水クイズ

⑮

避難キャンプのまとめ

①始めての取組であったが、参加者からは再度やりたいとの意見もあり、満足度が高い。
②ボランティアで参加した地域の方や、企業も参加して頂いて、地域の防災力が高まった。
③子どもたちが一連の活動から、何が必要なのかを感じ始めていること。

⑯



⑰

目　次

第一章　準備編
1　避難キャンプを始めるにあたって
学校　みどりが丘小学校　校長　高宮昭裕　7
企画　みどりが丘小学校支援委員会　代表　鈴木　介人　8
保護者　みどりが丘小学校　保護者会会長　阿部重則　10
2　学校支援委員会と各団体との関係先（学校・公的機関・企業団体）　11
3　防災についてアンケート及び結果　13

第二章　企画編
1　かまどベンチ作成について　22
2　八千代市で予想されている被害について　26
3　避難キャンプにおいて想定した、街の被害状況について　28

第三章　実施編
1　参加者の避難想定シナリオについて　32
2　ウォークラリー実施＆マニュアル　37
3　避難キャンプ実施＆マニュアル　44
4　自主防災隊との対話について　48
5　子どもたちが出した答えについて（避難所運営ゲーム）　49

第四章　結果編
1　参加者の感想について
アンケート（大人向け）避難キャンプ実施後のまとめ　51
2　子どもたちの感想について　61

第五章　応用編
1　防災ｅマップ作成　63
2　子どもたちが発信する安全作りへ　67
3　次の課題に向けて
（平成２５年度防災教育チャレンジプランプレゼン資料）　68

第六章　資料編
1　阪神事例（今後避難所訓練をやる人は必ず読んで欲しい）　70
2　マスコミ掲載　77

第七章　あとがき
協力を頂いた関係先団体企業紹介
ちばコープ　サイサン　トライアル　八千代市防災設備協会　78

第一章　準備編

1　避難キャンプを始めるにあたって
災害時における学校の役割を考える

八千代市立みどりが丘小学校長　高宮　昭裕

昨年３月１１日に起きた「東日本太平洋沖大震災」においては，多くの尊い命が奪われました。そして一年以上も経った今なお，被災された多くの方々が辛く厳しい生活を強いられています。同じ日本人として本当に心が痛みますし，被災された全てのみなさんに心からのお見舞いを申し上げたいと思います。

震源地からかなりの距離がある千葉県においても多くの甚大な被害がありました。各地の被災地の一日も早い復興とともに，今後も同様な自然災害は国内各地域で十分に起こり得ることから，それへの備えはどうするべきか，原子力発電の問題なども含め，日本の国全体で考えていかなければならない課題が多く存在していると感じています。

学校現場においては，とにかく子ども達の安全を守るということを最優先に考えなければならないのですが，今回の震災においては，不幸な事例が多々報告されています。

また，現実的には，災害がいつ起こるのか予測できない現状においては，学校の役割も地域の防災拠点であったり，避難所であったりと多面的に考えなければならないと感じます。今までの防災体制や防災・安全教育，地域や関係機関との連携のあり方など，見直しや「再構築」の必要性に迫られていると思います。

今回，この防災キャンプは，災害時における「学校の役割」ということについて再考する場になると考えますが，学校だけが役割を担うということでは決してありません。学校の役割を考えるということは，あらためて地域住民や行政，そして関係機関の役割についても考えるということにつながります。

いつ起こるかもしれない災害に備えるためには，住民及び関係者の意識を一つにすることが重要ですし，一人一人が当事者であるという意識を持つことが重要です。その一つのきっかけとなる貴重な機会としたいと思います。

また，子ども達にも参加してもらう意義として，子ども達自身にも災害から身を守る力を身につけてほしいということとともに，将来，日本をそしてこの地域を支える人材として，貴重な経験を積む機会となると信じます。

ご協力いただける皆様方に感謝申し上げるとともに，この防災キャンプに限らず，様々な面において学校への関心を寄せていただき，今後ともさらなるご理解・ご協力をいただきたく，よろしくお願いします。

避難キャンプの企画立案者として

学校支援委員会環境整備部　鈴木　介人

【3.11 でわかったこと】

私は、3.11 の際に新木戸小学校の体育館におりました。その時の経験から、今後の震災対策で問われる学校・地域との関係、市民の震災時の対応について考えさせられました。

東日本大震災で、私が経験し問題だと感じたことは以下のとおりです。

① 学校へ避難したことにより学校職員の負担が増加した。（初期避難所設営の主要メンバー）
② 学校・市・自治会との連携不足がみられた。（初動段階での対応力不足）
③ 避難した市民の避難所への意識不足。（避難所設営への協力度の低さ）
④ 設営後の避難所の、避難所としてルールの欠如。（設立・指揮・運用）
⑤ 多くの一般の方々の防災意識の低さ。

などで特に初動時の混乱とスタッフ不足を大きく感じました。

【震災による課題とは】

避難所での経験と、その後の東北地方での被害状況及び東京湾直下型が 30 年以内に 70%の確率で起こると予測されることを知るにあたり（3.11 まで私は東京湾直下型の確率について知りませんでした。）防災対策について真剣に悩みました。そして何が必要とされているかを次のように考えました。

① 学校・地域・企業・市などと連携した、地域全体で防災意識を向上させる必要がある。
　→　**行政任せではなく、学校の役割、住民の役割、企業の役割、行政の役割を考える。**
② 学校に避難するだけでいいという考えから、「避難して、一緒に協力する」意識をもつ。
　→　**共助・ともに助け合う・みんなが避難者であり被災者である意識をもつ。**
③ 社会的弱者である「子ども」をキーワードにして、親子・地域の人との関係を作る。
　→　**子供を主人公にして、将来の街を担うソフトを育てる。**

避難所として設営される学校を中心として、広がる課題となりました。

【最初は一人から・・・】

このような課題から、学校・子どもたち・地域を通じて防災について取り組むことができないかと考えました。

取り組みといっても、「旗振り役」もおらず「予算が無い」のにどうすべきかと悩んでいました。いろいろな資料や情報を収集して、昨年の秋ごろに「防災教育チャレンジプラン」について知りました。「これこそ探していた企画だ！」ということで、前蜂谷校長に相談をしました。東日本大震災後に考えるべきいい内容だと、なかば強引に事務局に企画を提出し、通ったら取り組み内容を再検討しましょうということになりました。結果的に事務局から企画が採択されたとの連絡を頂き、取り組むべき課題を検討し多くの人に呼び掛けて、防災対策に乗り出すことを目指して、この夏休みに行う防災キャンプにつながりました。

【さて主人公はだれでしょうか？】

私自身この企画立案をしましたが、実行するにあたって一人でできるわけではありません。学校・地域の皆さん・子どもたち・保護者・市・企業などいろいろな人たちとの協力が求められます。この協力が得られるような街にならないと、本当に震災があった時に守れる人も守れないのではないかと思います。

私たちの緑が丘地域は、東葉高速鉄道の開通（平成 8 年）に伴って人口が増加した地区であり、みどりが丘小学校周辺も住宅開発の途上であり、住民相互の関係が希薄です。私は、皆さんと街に住むお隣同士として、防災対策及び人との信頼を作る取り組みに、参加とお手伝いをお願いしたいと思っています。

【いままでの避難キャンプとは違います】

今回の防災キャンプが持つ斬新な考えが 2 点あります。「実践的な訓練」と、「楽しく行う」ということです。

なぜ「実践的な訓練」なのかについてご説明します。今回大部分の参加者には詳しい内容・課題について告知しないことにしました。内容を知らないまま訓練を経験することで、ご自分の日頃の防災対策レベルがどれくらいかを自覚し防災についての意識を培って欲しいと願ったからです。

なぜ「楽しく行う」のか？その理由は私たち住民が 3 つのタイプにわかれているからです。

① 日頃から対策をしている人
　→　自主防災・防災訓練などに参加しているタイプ
② 防災について興味があるが、何かきっかけが欲しい人
　→　みんなでやるなら参加したい。時間があれば参加したいな思っているタイプ
③ 無関心な人
　→　なんとかなるだろう、何かあったら周囲や行政がやってくれるだろうというタイプ

私は、地域としての日ごろの対策でカギになるのは、いかにして②③タイプを①にしていくかだと考えました。そこで今回の企画では「楽しく行う」ことで無関心層を引っ張り込むことを計画しました。

【何ができるでしょうか】

私は皆さんと同じ一般市民であり、学校に通学する子供の父親であります。防災に関しては、3.11 まではただの素人でしたが、あの経験で皆さんも変わったように、私も情報を色々探して変わろうとしています。

みんな震災後に「何かしないといけない」とは感じているはずです。「その人たちの背中をそっと押して前に進める役」として、私はこの場に必要とされていると思います。みんな気持ちを前に進めてください。少しずつでいいから・・・・・。

防災キャンプにあたり

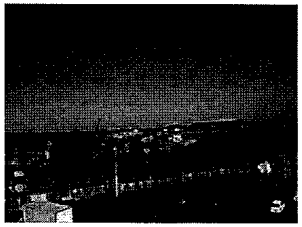
みどりが丘小学校保護者会長　阿部重則

3月11日の震災から1年が経ちました。私たちの住んでいる場所では被害が少なかった事もあり、あの日のことは徐々に忘れられようとしています。ただ関東地区でも大きな地震が起こることが予測されており、今後は大地震・大災害などへの心構えが必要かと思います。いつ起きるかはわかりませんが、訓練を通じてここの地域の防災設備・AED の設置場所・地域の連携など、私たちの身を守るために必要さまざまな事がらの現在の状況を確認することが必要かと思います。

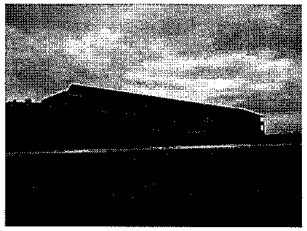
今回は子供たちが主役です。災害時に自分で身を守る方法・どのような行動すべきか・保護者との連絡手段などいろんな体験をして頂きたいと思います。自分自身で考えて行動する事によってより良い体験に繋がると思います。

ここの地域は、まだ新しく人と人のつながりが少ない街です。この防災キャンプを実施する事によって、ここの地域に住んでいる多くの人たちの中に**「絆」**が広がり協力し合えるようになる事と思います。

大きな地震が起きた場合に、被害を最小限に食い止める方法・自分の身を守る方法・その場に集まった見知らぬ方々と即座に協力ができるか・何ができるかなどが体験出来れば考えています。

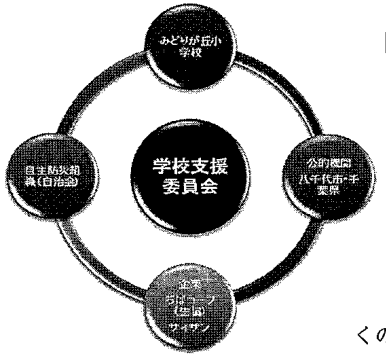


今回の防災キャンプでは子供たちに経験してもらうと同時に私たち保護者にも良い体験にして行きたいです。
みんなで良い防災キャンプにして行きましょう。



2　学校支援委員会と各団体との関係

今回の防災キャンプに向けた、協働関係を図にしてみました。



【学校支援委員会ってなんだろう】

企画が「学校支援委員会」とありますが、学校外部の人達からも、学校を支援しようとする組織（考え）です。学校力の低下による教育力・地域力の低下がみられます。そのため文科省から地域（小学校）に設立をすることを求められている組織が学校支援委員会です。

はたして、住民同士の関係が希薄な地域において、「みどりが丘小学校」は地域の人達とどのように育っていくのでしょうか。

【学校支援委員会でこの企画に取り組んでみてわかったこと】

① 学校支援委員会は各企業・組織を直接訪問して、協力をお願いすることにしました。特に目と目を見ていくことが重要であると思いました。この直接提案する場合において、団体・企業からどのような反応があるか、どのような対応をされるのかが私には、ある意味一番楽しかったです。特に企業にお願いした場合においてはそれが顕著でした。（下記⑦に記載）

② 学校支援委員会で企画を提案してよかったと思っているのが、人事異動による影響がないところです。学校が企画提案すると、学校職員の人事異動があった場合に、関係性（地域・企業）・継続性（防災教育として）・成長性（防災への取り組み）が損なわれるのでないかと思います。今回、みどりが丘小学校においては、校長・教頭が同時に異動となりました。このようにハードではないソフトを構築するという点で、第三者としての支援委員会が独自に企画立案したことは継続性においてプラスとなったのでないかと思います。

③ 学校下部組織として成り立ったために、学校・保護者会（※）の協力が得やすかったのだろうと思います。（※みどりが丘小学校では、PTA 組織に代えて保護者会組織があります）また、教職員への参加へのプッシュも異なっていました。

④ 学校組織の一員なので、幅広く呼び掛けることが可能となりました。自治会単位の自主防災だと狭い一部の地域に留まることになりますが、今回は自校区内に児童を通して幅広く呼び掛けることが可能となりました。（校区内においては自治会のないマンションなどもあり、学校の協力がないと交渉ルートが無いなどが問題でした。）また、学校区外からも参加申し込みもありました。

⑤ 市が計画すると、万事うまくいく予定通り防災訓練になると思います。しかし無関心な多くの人たちに知ってもらいたいとの思いから、駅前広場を利用しての実践的な訓練とウォークラリーを取り入れて、無関心層を引き込む楽しいメニューを採用しました。

⑥ 学校の立場・住民からの視点を総合的に加味し、調整をしました。また私達自身も、学校や自治体に**おんぶにだっこ方式**から目覚めるきっかけとなって欲しいと思います。また、防災キャンプを行うに当たり、企業に協力を求めることで、**「もしも」**が本当にあったときの連携を確認することができました。

⑦ 訓練において、各企業に震災時と同様の対応が可能かどうか聞くことで、企業の対応力が測れました。特に感じたのが、提案協力をお願いしたときの企業担当者からすばやい返答やアドバ

イスがあったことです。調理時に必要なガス・食材提供先である企業（ちばコープ）・避難所で就寝時に必要となった段ボールの確保（イオン・トライアル）に対し、協力的で速やかな対応がありました。

【学校は・・・】

校長・教頭先生が２人同時の異動となり、あらためて学校との関係を構築しなおして、教職員の方々にも協力をお願いすることになりました。校長・教頭両先生も震災時の対応については、学校でできる範囲はどこまでか、どこまで協力するのか、職員の参加などはどこまで対応するか悩んだようです。私も、夏休み期間中ということもあり安易に出て頂けるとは考えにくいのかなと思いましたが、しかし今回の発表の通り、ほぼ全員の先生方も出ていただいて、しかもアイディアを出していただいたことは幸運でした。

校長先生が、この防災キャンプについて考えられたことで「なかなかこのような場では集まらない人も来るのだから、知らない人同士で、夜に、みんなで防災について話し合いをしてみよう」ということとてもいい成果に繋がりました。

安全担当である小湊先生は、避難所を設営した際に学校でできる範囲に限界があることを理解されていて、「もしも？今後おきるであろう震災時の対応」について日頃から研究を進めていました。そのため避難キャンプへの理解が早く、開催準備がスムーズに行えて、しかも学校側の課題も加えて行うことが可能になりました。

このように企画を提案していく過程においては、安全担当教員だけでなく、学校全体にこの企画を理解していただくとともに、ネットワーク作りができるかがカギとなる予感がしました。

【保護者は】

この「避難キャンプ」実施を知らせるようになってくると、少しずつですが、保護者から「どのようなことをやるのか？」「参加したい！」などの声が聞こえてきました。また、キャンプに役立ててほしいと、ＤＶＤを提供してくださるなど、一人一人が動き出す様子がよくわかりました。

また、保護者の会阿部会長が協力姿勢を示すなど、弱者でもある子どもの不安解消のために大きな意味があったと思います。

【自主防災組織は・・・】

私が初めてこの企画を自主防災の方に提案した際の反応は、即決でした。「やりましょう！」というお返事を、この時ほど頼もしく思ったことはありませんでした。自主防災組織でも問題はありました。関心がある人しか防災訓練に参加してこないという裏事情でした。私も同意見だったため、話は早かったです。特に自治会の防災組織は高齢者が主体であって、継続性などに不安があったことも大きいと思います。地域の人達に幅広く訴える機会をつくることで興味をもっていただき、防災組織の拡大をしていきたい。ひいてはそれが安心安全な街づくりに繋がるのだと、ご協力をいただけることとなりました。

【公的機関は・・】

避難キャンプとして一番身近で協力的な公的機関は、八千代市であり、その部門は「総合防災課」でした。担当者である斉藤氏と一昨年から偶然にも顔見知りであったことは、今回幸運でした。3.11の対応と今後の対策について、まだ取り組みの途上でありましたが、避難所での経験や今後の対策について考えなくてはならないとの意見は一致しており、住民自身がこのような防災対策に乗り出すことに対して積極的に協力をしていただくとともに、情報提供がなされてきました。

3　防災についてアンケート及び結果

１．はじめに

この防災アンケートは、８月に行われる防災キャンプについて、もしもの震災時における想定される避難状況や家庭での対応結果に応じて、避難所である学校の対応が用意できるとともに、何が必要とされるかが理解できることになるために実施した。

また、このアンケートをしながら、忘れがちな防災対策について考えるきっかけとなることも考えたものである。最終的には、アンケートで得られた結果を分析して、防災教育に関する基礎資料得ることが目的となる。

２．アンケートの概要

アンケートに関しては、保護者に対して、防災についての備えやあった場合の対応について尋ねるとともに、基礎的なデーターとして子供の人数と学年をたずねた。また、児童と保護者間で意識や知識の違いがあるかを再度子供に対して行うことで、防災力の確認をはかっている。

３．アンケートの方法

①調査対象地域　八千代市立みどりが丘小学校学内
②調査対象者　　八千代市立みどりが丘小学校の児童及び保護者
③配付数　　２９９部
④調査方法　　児童に配布して、保護者記入により回収する
⑤実施時期　　５月２８日配付　６月１日回収

４．調査内容

①回答者の属性
②日頃の防災対策について
③３．１１（東日本大震災）における状況・対応について
④子どもの地震時の対応について

５．アンケート回収結果

配付数　２９９部
回収数　１９６部
回収率　６６％

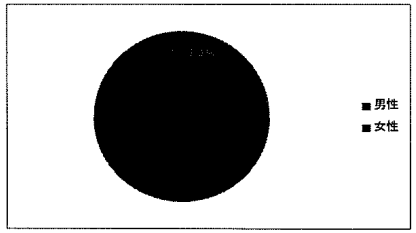
学年	児童数	回収数	回収率
1年	47	22	47%
2年	56	37	66%
3年	38	26	68%
4年	36	23	64%
5年	68	61	90%
6年	54	27	50%
合計	299	196	66%

参考資料:防災アンケートの回収率については、横須賀市における平成２２年に実施した際は、回収率が４６％平成２１年に実施した市原市においては、９２％であった。

6．回収結果

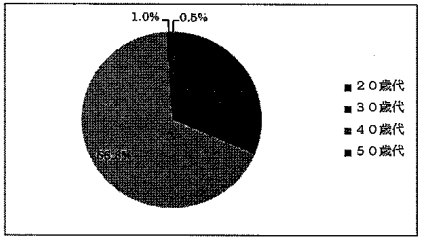
◆ あなたご自身のことについてお伺いします。保護者

① 性別



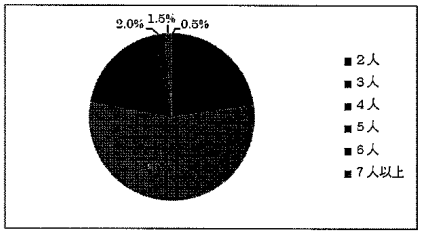
保護者では、殆ど女性からの回答していただけた結果となった。

② 年齢



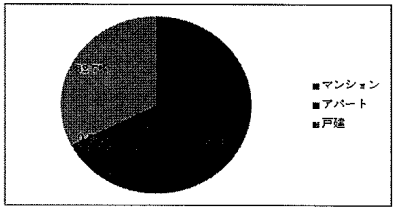
記入の対象年齢（２０～５０歳代）のうち、ほぼ３０歳～４０歳の世代となった。

③ 何人暮らし



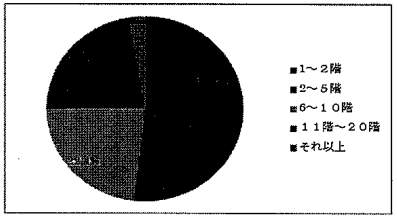
３～５人の世帯が多く、平均４名が多い結果となった。また、夫が単身赴任のため、２名だけのデーターも出ている。

④ 居住形態



マンション居住者が多く、７割を占めている。

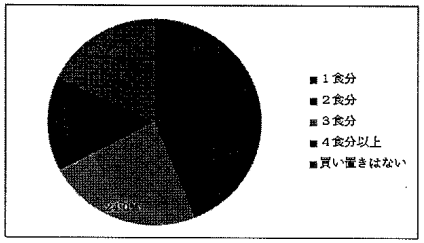
⑤ 階数



戸建居住者は、１～２階であるが、マンション居住者においては、半数以上が６階以上との結果となった。これは、エレベーター停止となると、不便を強いられる結果となる。

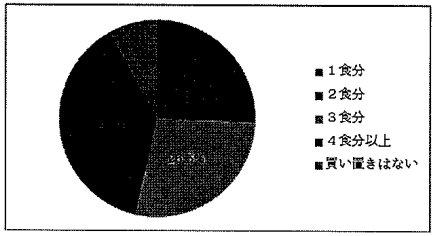
◆ 日ごろの防災の備えや、日ごろの生活状況についてお伺いします。保護者

① 非常食買置き



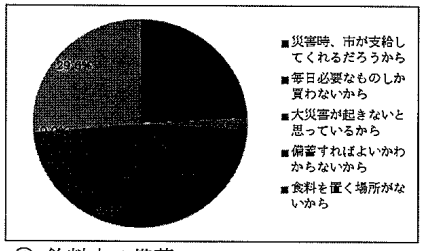
非常食の備蓄については、０～２食分でほぼ７割を占めることから、インフラが復活しない場合は、家庭備蓄は半日で底をつく結果となる。

② 常食買置



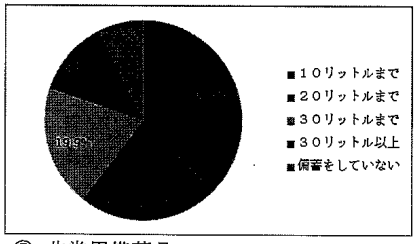
インフラが復活後での備蓄食料については、半数が３食までの備蓄と回答している。このことから、非常食の備蓄量としては、１．５日分が限度であり、備蓄していない家庭は、わすが１日で底をつくことになる。

③ 買置きが進まない理由



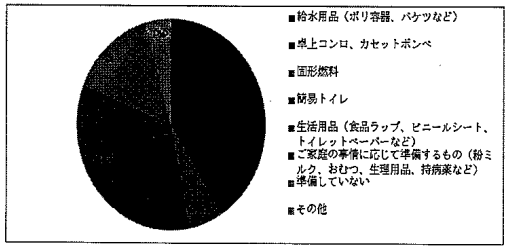
今回のアンケートで未回答が多い質問であった。回答に困ったと思われるが、備蓄が進まない理由は、備蓄場所・必要な分しか買わないなどの理由が挙げられた。

④ 飲料水の備蓄



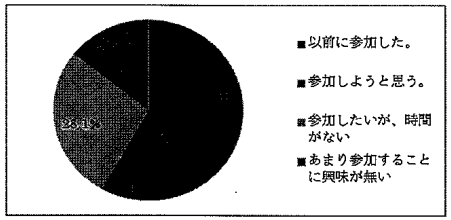
平成２４年５月の利根川水系におけるホルムアルデヒドの検出事件の後であったが、飲料水の備蓄については、１人当たり３リットルと言われていることから、限度が２日程度と判断される。

⑤ 非常用備蓄品



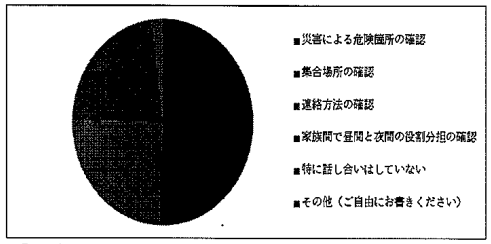
給水用品・卓上コンロ・生活用品の備蓄は比較的に進んでいる。また、１割程度の家庭では専門的に災害用備品を整備したり、アウトドア派の家庭ではその内容が顕著である。

⑥ 防災訓練



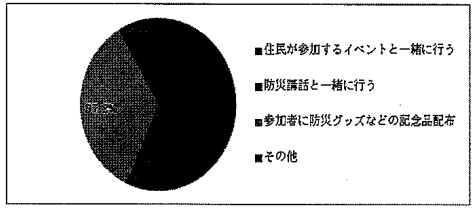
４割が何らかの形で防災訓練には参加したとの結果がでている。ただし、６割は参加したことがない、あまり積極的では無いことがわかる。

⑦ 家庭での話し合い



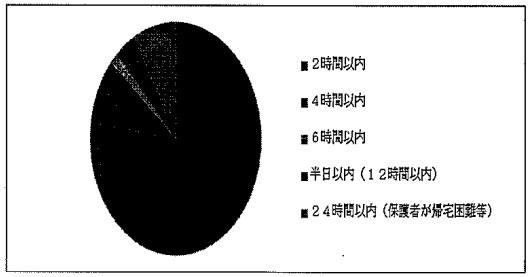
家族では、集合場所の確認が４割を占め、連絡方法にも具体的に決められている反面まったく決めていない家庭もあることがわかるため、今後の課題となる。

⑧ 防災訓練参加



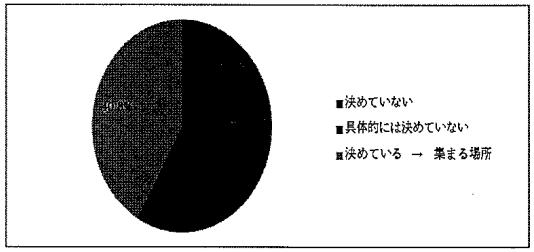
防災訓練を実施する場合は、イベントの一環や、保護者からは、学校に集まるときに一緒にやってみたら参加する人が増えるのではと意見が出されている。

⑨ 学校に迎え



８割が２時間以内に引き取りに来れると、回答している。ただし、<u>１割の割合で、保護者が帰宅困難になり、翌日以降に迎えに行けると、回答している。</u>そのため、平日であった場合は、みどりが丘小学校の児童においては、２５～３５名は学校側で翌日までは、保護する必要がある。

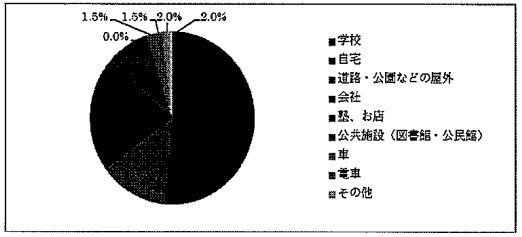
⑩ 地震集合場所



６割は、災害時の避難場所を決めていない。学校外であった場合の対策が遅れている。
避難場所については、新木戸小学校・みどりが丘小学校・スポーツの杜公園・光の杜公園・図書館前・駅前・ロータリーなどを上げている。

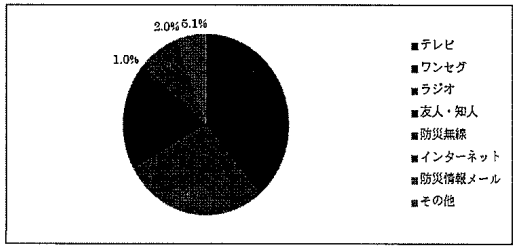
◆ 東日本大震災（3.11）の当日の状況についてお伺いします。保護者

① 地震発生時



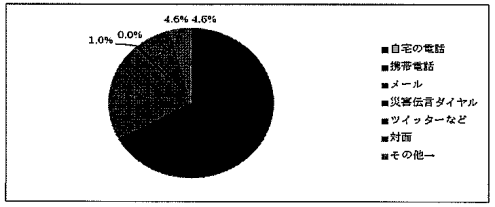
回答者のほぼ半数が在宅中にあったと答えている。

② 地震の情報収集



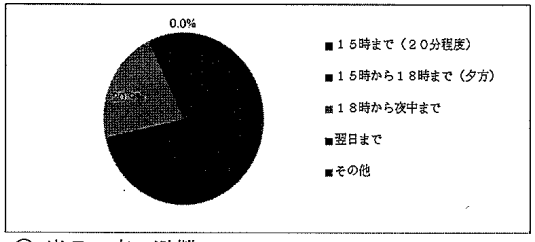
テレビ関連・ラジオが大多数であった。また、停電により情報を取得できなかったとの回答が寄せられた。２割の人が友人・知人から情報を得たとしている。

③ 家族との連絡手段



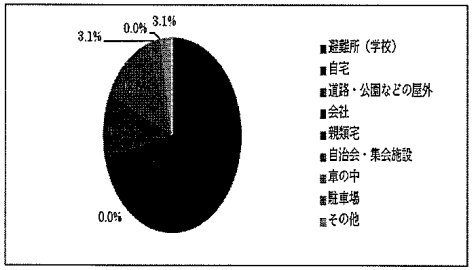
連絡手段としては、携帯電話の役割が増加している。公衆電話の利用も一部にみられた。

④ 家族全員安否確認



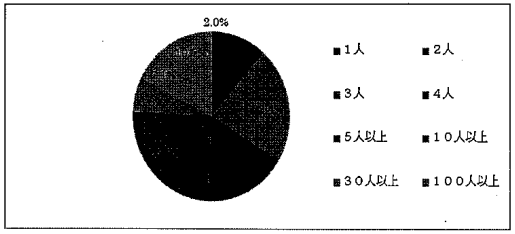
家族の安否確認では、地震発生日から翌日の朝まで連絡が取れなかったとの回答がよせられている。

⑤ 当日の夜の避難



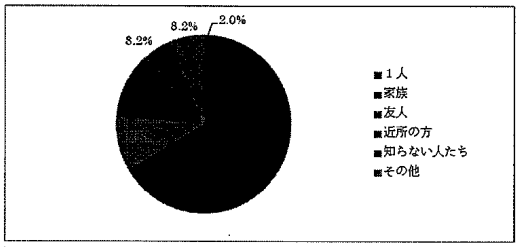
半数の人が自宅で避難して待機していた。ただし、半数は、自宅以外で待機していいたことになる。特に避難所・自治会施設・親類宅などが３割を占める。みどりが丘小学校の場合は、最低１割の児童及び保護者が学校に避難してくる可能性がある。また、学校外の地域住民は考慮していないことに注意が必要である。

⑥ 当日の夜は何人と



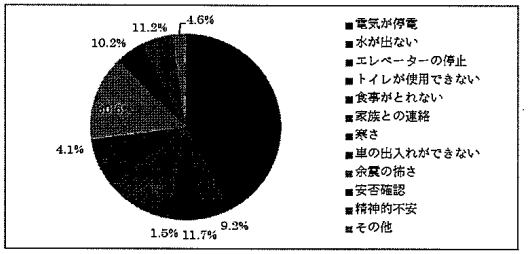
避難所・自治会施設に避難した方は、３０人以上だったとの回答である。

⑦ 当日の夜は誰と



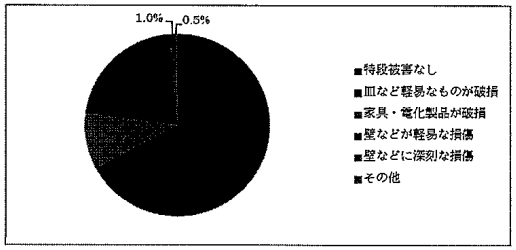
家族で過ごした方が多数をしめ、次の友人など知人となった。

⑧ 当日一番困ったこと



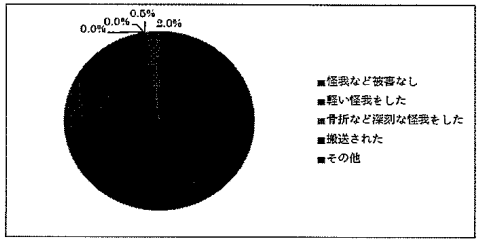
電気が使えなかったことが最大の理由としている。私たちの住む八千代市市内でも停電地域と、停電しなかった地域があり、本アンケート調査地域は、停電地区であった。

⑨ 自宅の被害状況



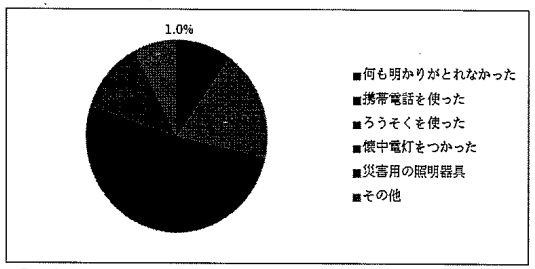
特段被害なしと軽微な損害で住んでいる家庭が殆どであった。

⑩ 地震後から当日の自分自身の状況について



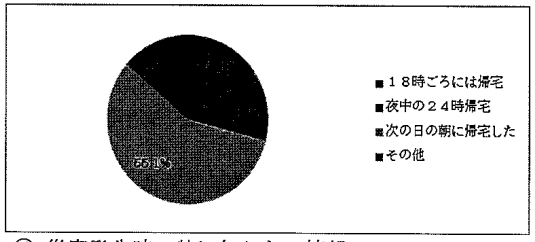
怪我などの被害がなかったと報告されている。

⑪ 当日の停電照明



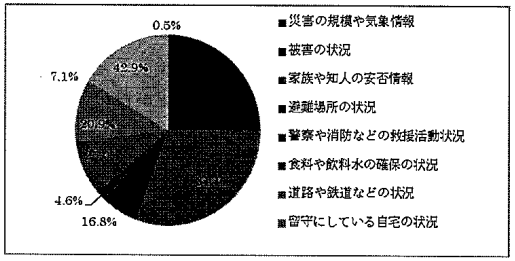
懐中電灯が活躍したことがわかる。携帯電話はバッテリーが使えなくので、あまり使われなかったようである。

⑫ 自宅帰宅できた時間



家族で一番最後に帰宅できた割合は、翌日の午前中が多く、翌日の夜であったの回答も寄せられている。東京湾直下型であった場合は、更に帰宅時間がかかると思われる。

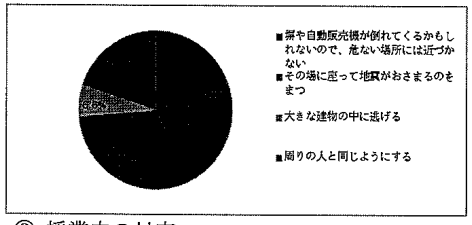
⑬ 災害発生時、特に知りたい情報



家族の安否確認が一番多く挙げられ、インフラの復旧などが次点にあげられる。

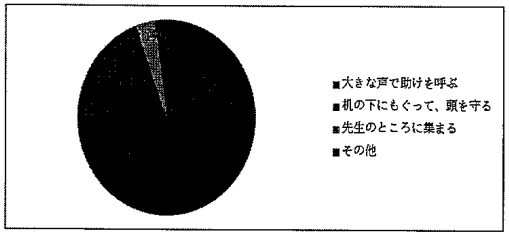
◆お子さんへの質問：お子さんが書くか、質問しながら書いてください。子どもたち

① 登下校対応



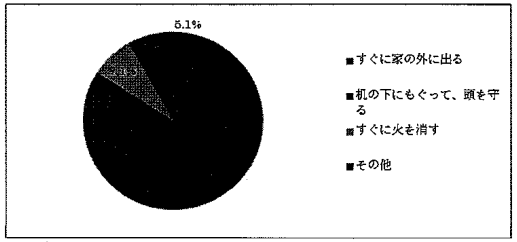
危険な場所には、近づかないとの回答がでているが、子どもたちの災害時の対応については、今後授業などをとおして、自分で判断する力を養う必要がある。

② 授業中の対応



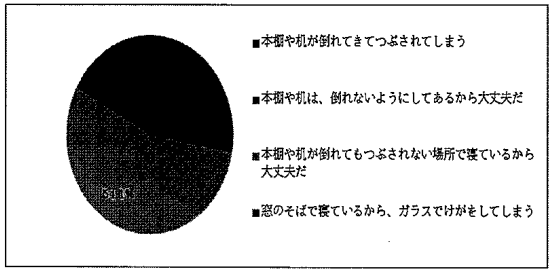
殆どの児童が机の下に隠れると回答している。学校での避難訓練における学習成果であると思われる。

③ 家での対応



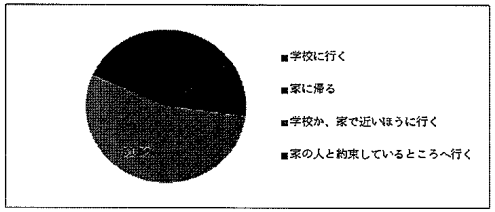
学校での避難訓練時の対応とほぼ同様の結果が出ている。

④ 寝ている時の対応



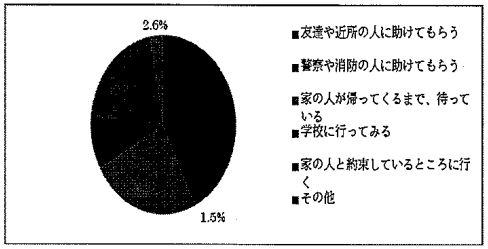
ほぼ大丈夫の回答であるが、3割がなんらかの危険要素があるとの結果である。

⑤ 登下校後対応



登下校時の対応がわかれる。今後学校・家庭での対応について検討する必要がある。本校は津波の心配がないが、「てんでんこ」のように各自個人で自助・避難という要素を取り入れるべきか真剣に考える必要性がある。

⑥ 家で留守番対応



児童が在宅時においては、自宅で待機との結果がでているが、親が帰ってくるまで自宅で待機させるのか、避難所へ各自避難させるべきか、決断をすべきかを検討する必要がある。

7．文書による防災についての意見概要

【４０歳代の母親　在宅して子供たちと】

３．１１の時は、家族も無事で、自宅にも被害はなかったですが、精神的な不安が、夜、暗くなるにつれ、増していきました。主人が帰れない今夜を、何とか子供たちと乗り切らなければと思うほど、余震の度に悪い事を想像してしまい、それが子供に伝わり、余計に不安がらせてしまいました。

災害はいつ起こるかはわかりませんが、平日の日中だとすると、家族を守るのは母親です。実際の被害はなくても、精神的に安心できる地域のコミュティーは必要だと感じます。

【４０歳代の母親　仕事で都内へ】

私が都内に勤めているので、子供の安否確認の取り方に悩みます。学校にいる時はまだ安心ですが、通学や帰宅途中、家に１人でいる時、とても心配になると思います。

一人で判断を誤って怪我をしたりしないか、暗い中知らない人に助けを求めて過ごすことが出来るか、日頃から私とはなれた時は色々話をして何かあったら、こうしないさいと言っていますが、「いざ災害時に行動にうつせるか」はわかりません。

【４０歳代の母親　子どものストレスについて】

３．１１の地震の後、親がテレビをずっと津波の映像や悲しいニュースを見続けていたせいか、４才の娘はストレスで吐き気が止まらなくなり、停電でうす暗い病院でろくに治療もできずに大変な思いをした。最後には血まで吐いてびっくりした。

幼い子供には、親が思うより、ショッキングな出来事だったのではと、思い知らされた。

【３０歳代の母親】

子ども２人のみが生き残ってしまった場合は、どうしようかと不安になります。
子どもの通学帽子が、ヘルメットのような、もっと頭の保護に役立つものであれば良いと思う。

8．東日本大震災で経験をしたことについて

【困ったこと】

停電のため、途中で電池が切れて、携帯電話が使えず、家族の連絡が取れなかった。

【備えとして】

夫がリュックに運動靴で行動するようにしている。
子どもが、朝なら学校・下校は自宅に集まるようにしている。

【避難場所について】

みどりが丘小学校　みどりが丘小学校の体育館入口　家　学校　スポーツの杜公園（公園と漠然としている人から、土俵の上など具体的にあげる人もいる）　新木戸小学校　駅ロータリー　広場
時間差を設けている人もいる。昼間は学校、夜は自宅など

【役立ったこと】

乾電池・手回し充電器・ランタンなどが停電時に役立った。
公衆電話を利用して家族の安否確認ができた。

【危機意識とは】

危機意識がだんだん薄れていく
以前は保存したが、賞味期限切れ以後購入しない。
震災直後は、用意したが、以後していない。

第二章　企画編

1　かまどベンチ作成について

【みどりが丘バージョン】
～～普段あまり日曜大工にほど遠いお父さんと子どもでやってみました～～

【基本的な目標】
当初、かまどベンチを設置するにあたって、企業が公園などに設置しているタイプを購入して設置することが一番簡単であると思い立ったが、予算的都合と、自立で設置したほうがよいと思い立った。また、幸いなことに、彦根工業高等学校の事例があることなどから、よくよく考えれば自分達でも可能であると判断した。

そのため、私たちの「みどりが丘小学校」において、このかまどベンチを作るにあたって、以下ことを課題として作成作業を行った。

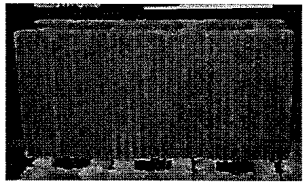
① 比較的に簡易的に作れること。
　普段サラリーマンのお父さんが作成するために、あまり技術的に高い物は求めないことにした。また同様に時間的にも制約があることも重要。

② メンテナンスが容易であること。
　このような防災関連施設は、普段から利用するものではない。年間行事で、数回使われればいいほうと思われる。そのため、経年劣化などがあまりしない構造であったり、保守管理が容易であることが理想であると判断される。

③ 鋳物コンロが使用できる構造であること。
　通常災害時においては、調理をするにあたって、火をどうするかであるが、わが小学校では、学校支援メンバーで、ガス供給会社が近隣にあり早期に供給ができる状態である（協定締結済み）ため、プロパンガスにより鋳物コンロにより調理ができることから、利用できる構造とした。

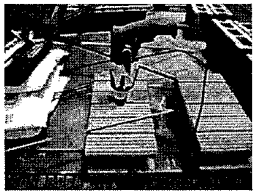
【構造について】
鋳物コンロが設置をするスペースを確保しつつ、作成時間が長時間ができないことから、ブロック構造として作成を容易にすることにした。
また、作成費を低額に抑えるためにも、鉄筋を使用することで、価格を抑えることができた。

【材料について】
砂利
コンクリート及びモルタル
ブロック
鉄筋
２×４（防腐材）

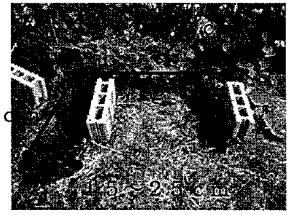


【道具について】
コンクリートを練る舟　スコップ　水平器　水糸　バケツ　突き棒　バケツ　左官コテ
インパクトドライバー（ビス・ドリル）　刷毛・塗料バケツ

① 【ブロック加工】
鉄筋を入れる個所に穴をあける。
鉄筋サイズは、Ｄ１１～１３程度とした。
振動穴開けドリルにて、ブロックの中心部に
穴を１１～１５ｍｍ程度をあけた。

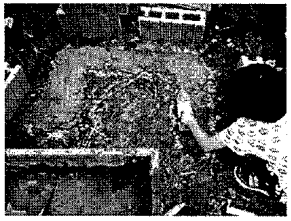


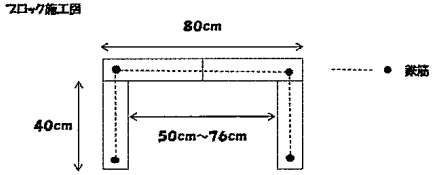
② 【設置場所の基礎工事】
ブロックベンチ設置場所の基礎をつくるために、いまの地面より２０センチ程度掘り返して、砂利を敷き詰めて、転圧をかけた。
６０～８０



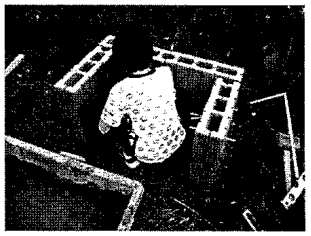
大きさは、
縦は、ブロックが１枚
横に、ブロックが２枚となる。
（詳細については、ブロック積むで）

コンクリート練り上げて、砂利の上に敷きつめて、ブロックの基礎用の面を作る。
※このような作業は、比較的に子供でもできる内容です。
コンクリートを練る作業は大人が行うべきですが、コンクリートは極力水平になるように作業をしてください。



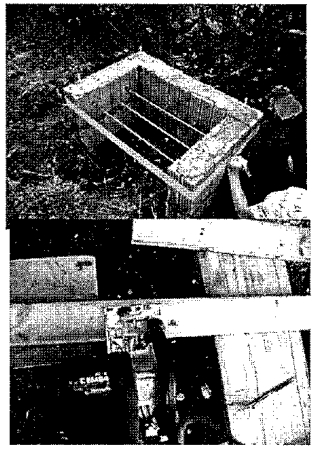


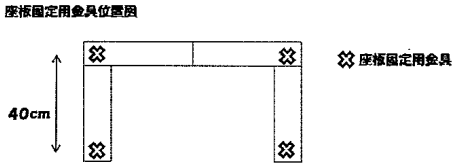
③ 【ブロック積み】
さて、いよいよブロック積みとなりますが、
ブロックの横筋用と縦筋の鉄筋を切り、曲げ作業を事前にしておきます。
続いて、モルタルを練り上げて、ブロックを積み上げています。今回は、２段にしています。また、穴をあけたブロックは上段に配置しています。



④ 【金具設置】

ブロック積みが終了したら、最後に鍋がおけるように、鉄筋（中央に３本）をいれます。上部に設置する、ベンチ板を固定するために、ねじ金具を４か所に設置します。

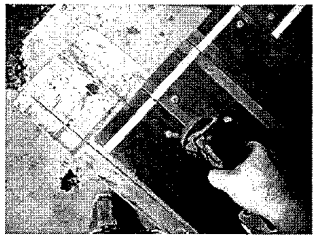


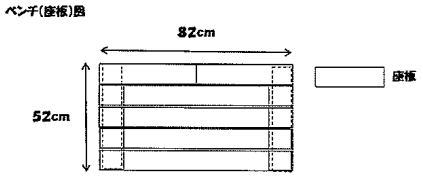


⑤ 【座板の作成】

ブロックカマドの上部に設置するベンチ板を作成します。この木材は２×４のサイズで、防腐剤が入りの物を使用しています。

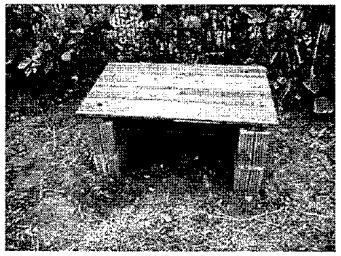
特異の丸鋸で木材をブロックの横幅に合わせて切断します。ベンチ板は、ネイル（木材用ネジ）にて固定して、隠しキャップにてネジ部分が出ないようにしています。





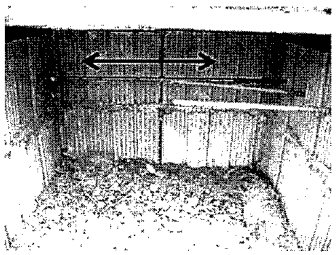
⑥ 【座板設置】

ブロック上に座板を設置します。ブロックに配置した留め金具にて、座板がヅレないように固定しています。



⑦ 【内部について】

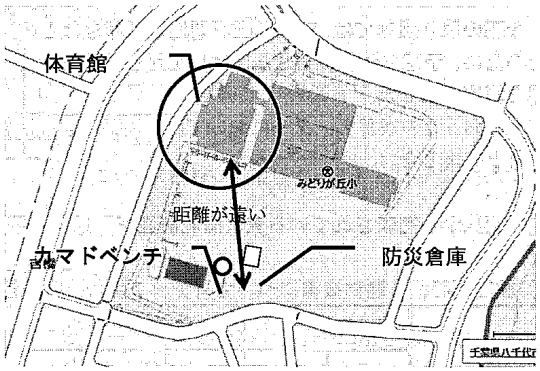
鍋が設置される、内部ですが、鉄筋がこのように、動かせるように配置しています。非常時は、焚き木などで調理する場合は、鉄筋を使用して、鍋がおけるようになります。プロパンガスなどが入手でき次第には、鉄筋を取り外して、鋳物コンロにて調理ができるようになります。



⑧ 【使用について】

このかまどベンチを使用する予定でした、しかし、参加者が１００名であること、設置場所が当初の防災倉庫近くでは、避難所として設定している体育館より遠いので、配膳時に混乱するのではないかとの声があがりました。

また、100 膳以上となると、鍋が三つ程度（２０リットル型鍋）必要になるにいたって、一基のかまどベンチでは役不足でありました。



⑨ 【臨機応変】

ごはんをつくるに際しては、市側から屋外炊飯器を使用することになり。カレーについてどのように調理するかになりました。

※屋外炊飯器については、灯油を使う、点火時には電気も必要など諸問題があり、一般人がいざという時に使用する場合には、リスクと使用については不便さがつきまとうことがわかりました。このことが、問題提起となり。来年のキャンプ企画（カセットコンロ）につなげていくこと　とした。

ガス会社（株式会社サイサン千葉支店）との意見交換で長年地域との協力で行っていた、餅つきでの経験から、ブロックを積み上げて臨時のかまどを三基ほど作って行う調理法の意見がでました。

今回は、鋳物コンロも使用して、ブロックを積み上げて風除けを作りました。実際は、このような形で調理を行いました。

※企画者としては、実際にやりたかったのですが・・・、次回に期待します。

⑩ 【カマドベンチについて】

カマドを設置する場所については、適切な**場所**としては、都市部の避難施設では、カマドベンチタイプでは、たき火を考えている場合は、設置地域において、**たき火が入手できる地域**であるのか？**想定されない地域**では、鋳物コンロタイプのみ使用する前提で設備をおこなうこと。次に設置個所は、、防災倉庫付近が前提となるが、**避難所施設から比較的遠くない個所に設置**することで、また、**逆に近すぎてもいけない**、配膳スペースが必要なためのスペースも考慮する必要があることも検討をしていくことを大事だと気づきました。実際今回の経験では、カマドベンチなどの設置も有効であるものの、日頃の設備管理維持面や、市町村において予算が無い場合や、自治会での財政面からして検討対象としては、実際的にはブロックでも使用には、臨時の場合は、差支えがないのではと感じました。

3　八千代市で予想されている被害について

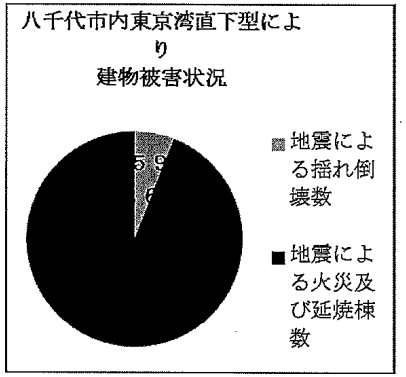
今回の取り組みでは、東京湾直下型地震が起きたとの想定で避難キャンプを行うこととしました。そのため、予想される被害状況について調査するとともに、現在の人口増加分を加味した新たな予想を算出しました。
（※なお、この被害データーにおいては、災害は、もしものことを考えて最も悪い事例を採用することとしました。）

【千葉県から発表されている東京湾北部直下型地震　平成19年度調査より　八千代市の場合】

① 震度別面積・建物被害について（１－７主な被害想定結果総括表　東京湾北部　風速９ｍ）

昼間人口（人）	震度別面積率		市内の建物棟数			建物破損・消失棟数			エレベーター停止台数
	５強	６弱	木造	非木造	合計	揺れ	火災	合計	
140,029	17%	83%	34340	8999	43339	259	4126	4385	210

※ 10%の建物が被害を受けると予想されていることが注目されます。また、緑が丘地区はマンション棟数が多いことから、停電によるエレベーターの停止などの被害があるものと予想されます。電気が使用できたとしても高層ビルの場合点検作業などを考慮すると１週間程度は停止する可能性も否定できないのではないでしょうか。



千葉県の火災による被害状況について、八千代市で特に被害が多く出そうだと予想されているのが南部地域で京成線沿線の住宅地です。
これは、昭和30年代から40年代にかけて、造成・建築された古い住宅地域であることと、道路幅が4mと消防車の出入りがしにくいことから、延焼する可能性が高いなど複合的な結果と思われます。
※逆に緑が丘地域は、不燃材利用率等から火災発生の確率は減予想。消防車の派遣が少ないと判断されます。（南部地域に投入されることが高いため）

② 八千代市で想定される避難者数及び収容人数　（表13.3-2 避難者数算出　表14.4-1より）

	収容可能数	避難者数			
		発生直後直後	１日後	４日後	１０日後
人数	43471.05	20076	51719.85	29663.55	28701.75
人口割合	23.00%	10.62%	27.37%	15.70%	15.19%

人口の約27%　４人に１人が避難する予想です。みどりが丘小学校区においてはマンションが多いため、エレベーター停止に伴う避難者数の増加が見込まれることに注意が必要です。

③ 八千代市で想定する地震による人的被害について（9. 人的被害　最も被害が多い場合）

建物倒壊・建物内			火事・ブロック・急斜地崩壊被害			合計		
死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者
5	27	748	99	101	331	104	128	1079

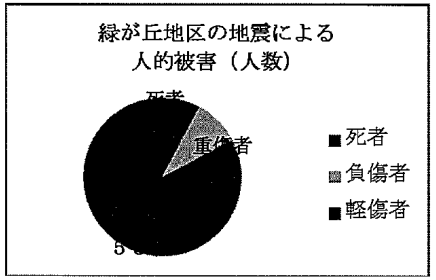
※火災における延焼被害の増加が予想され、それに伴い人的被害も増加する要因となっています。
※人口は平成17年の国勢調査結果（約18万人）を利用。

【緑が丘地区において予想される被害状況について】

上記八千代市の被害予想から現在の人口比率によって緑が丘地区の被害を算出してみました。（単純に人口比率により算出しているのみです。緑が丘地区の人口を市人口の約5%と想定しました。）

① 地震による人的被害について

建物倒壊・建物内			火事・ブロック・急斜地崩壊被害			合計		
死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者
0	1	37	5	5	16	5	6	53



地震直後の建物倒壊及び建物内における軽傷者が多いことがわかります。
死者予想では、火事等による死者が多いことがわかります。**火事による延焼においては、避難する時間があることが想定されるため、死者数から比べると軽傷者数が少ないことがわかりました。（火災を発見して、避難する時間があるため）**

② 予想される避難者数
緑が丘地区内の人口8860名（市内人口の約5%と想定したものの現在人口増加地区のため定期的に見直しが必要）のうち、28%の2545名が避難すると予想しました。避難先は2か所（新木戸小・みどりが丘小）が想定されます。また、3.11でもあった通り、駅の近くに立地しているために、帰宅困難者を受け入れる必要があることも加味しなければならないと思われます。

3　避難キャンプにおいて想定した、街の被害状況について

前項の被害結果及び阪神淡路大震災の事例から、避難キャンプにおける街などの被害状況と人々の動きを下記の内容で想定しました。

【地震発生内容】

8月4日12時31分：東京湾市川市沖において、震度6強の地震が発生した。

八千代市は、震度6弱に襲われ、揺れは発生から収まるまでは1分間続いた。また、津波は発生しなかった。余震は頻発して発生している。

【被害状況】

地震による緑が丘地区の人的被害について

建物倒壊・建物内			火事・鉄道事故			合計		
死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者	死者	重傷者	軽傷者
1	2	37	1	8	48	2	10	53

建物倒壊での被害は、あわてて逃げた方が転倒して、1名が亡くなった。他の負傷者は、建物内での物が倒れたりした被害によるものである。

火事については、緑が丘駅は商業施設が多数立地しているため、飲食店からの出火が一件発生し、従業員が巻き込まれて死亡した。火事自体は店舗従業員および市民による消火作業と、防火扉を閉鎖することで鎮火した。しかし、その火事から避難する際に将棋倒しとなった方が重傷及び軽傷を負う事故が発生した。東葉高速鉄道において一部の車両が脱輪して急停車したため、乗客が転倒するなどして負傷。なお、負傷した方々は駅の下に避難し、駅前広場でうずくまっている。

【発生後の概要：2時間後までの街の様子】

項目名	被害内容
街の被害概要	① 一般家庭では、これから遅めの昼食にしたり、昼食が終わって片付けも終わって、テレビを見たり、外出しようと準備をしている家庭もあった。 ② 地震発生直後において、車や人などは揺れが大きく、人は怖くて、立ち止まったり、地面に座りこんでいる、車は停車している。 ③ 地震が発生して、いきなり電気が止まり、テレビが消えて、地震の揺れの音しか聞こえてこない。(街の音が無い状態) ④ 電線の一部が切れ、電柱が斜めになっているところがある。 ⑤ 信号は動作していない。しばらくしてから警察官が交通整理に出始めた交差点もあるが、すべての交差点はカバーできていない。 ⑥ 街から2か所ほど煙が出ている。(店舗・車から) ⑦ 歩道上は建物の外壁や看板が落下している場所などもあり、歩行に一部注意が必要である。 ⑧ しばらくすると、遠くで救急車・消防車のサイレンがなっている。

項目名	被害内容
インフラ	① 電気・水道・ガスについてはすべて停止している。 ② 携帯電話は基地局の3分の1が故障し、大量の通話によってさらにつながらない。 ③ 固定電話も同様で、つながりにくくなっている。固定回線の2割の回線が故障でつながらない。特に光回線はまったく運行停止している。 ④ 車道は一部にひび割れが生じているものの、通行に支障がでるような被害は発生していない。
交通機関	① 東葉高速鉄道は、地震発生によりレールから電車が外れ、急停車をした。この急停車により乗客が転倒するなどしたことにより、怪我人（軽症者）が発生している。また、運行停止により駅から乗客が避難し始めている。 ② バスは揺れがおさまり道路の安全を確保しだい、運行を開始するが、時刻表通りに運行できないとして案内の張り紙をしている。 ③ 帰宅したい人たちが、タクシー乗り場に集まり、行列が発生しはじめている。 ④ 車などは信号が停止したため、一部渋滞が発生していたり、徐行運転をしている。交差点では地震に驚いて、急停車した車に追突して煙がでている。
八千代市	① 土曜日の午後ということで、職員が不在である。マニュアルに沿って、防災担当職員は市役所に急行し、総合防災課の7割が1時間後に到着した。(阪神の事例：担当部署の参集率は比較的に高い）被害状況の収集・災害物資の手配・市内の建設業者への連絡などに動き始めている。 ② 他の部署の参集率が低く（阪神の事例参考)、参集した職員も庁内の片付けに追われ、避難所への派遣は遅れている。 ③ 市長は、公務外にて休暇中であったが、市庁舎に登庁する。(交通機関の乱れにより午後3時ごろ)
警察	① 駅前の交番は、警察官が外にでて事故処理（地震に驚いた車が急停車し、後ろの車が追突したため事故が発生した。）及び交通整理をしている。 ② もう一人の警察官は、市民から通報で救命救助及び被害の確認にオートバイに乗って、走り回っている。そのため交番内は誰もいない状態である。
消防	① 建物の倒壊及び建物内で怪我人・火事が発生したとのことで、救急車・消防車が出払っている。 ② 指令センターは、電話が鳴りっぱなしで対応ができない状態。出動した車両も行く途中で呼び止められたりして、なかなか救命救急活動がスムーズに進まない。 ③ 所属する隊員は、各自持ち場の消防署に集結を始めている。
学校	① 夏休みのため一部の先生がいるのみであった。各先生はとりあえず建物から外に集まって避難している。 ② 教頭先生が在校であったので、まず学校の安全確認をする作業をすることになった。なお、校長先生は、１５時に学校に到着する。 ③ 一部の先生は、家が心配で帰宅する方もいる。 ④ 震災から一時間後に八千代市（総合防災課）から避難所として準備をして欲しいと連絡が入る。校長が残留していた職員に対して、避難所としての受け入れ準備を宣言し、各担当に指示する。

病院	① 病院内の備品が倒れたりしている。 ② 停電のため中小の病院では診察機器が使用できない状態である。 ③ 大きい病院においては自家発電装置が作動して、一部に電気が復旧しているが、入院患者のケアや院内の片付けで精いっぱいの状況である。 ④ 救急医療体制を確保するために医師・看護師を呼びだすものの、連絡手段がないことと交通手段がマヒしていることで、在院しているメンバーで救急を受け入れる体制をとることを院長が宣言をしている病院がある。
スーパー・商店（コンビニ）	① スーパーなどは、顧客を避難させるため避難誘導をしたが、一部の人が慌てたために転倒して怪我をした。店舗内では、ショーウィンドーのガラス割れたりしている。また商品が崩れたりしているため、当分営業ができない。 ② コンビニは、停電およびガラスが割れたり商品が棚から落下したために、閉店をしている。 ③ 買いだめや、パニックになる恐れがあるため、大規模流通施設は、復旧しても当分は営業をしない旨店長が宣言して、大部分の従業員に対して帰宅指示をする。
自宅	① 部屋の中で、タンスや書棚が倒れて、物が散乱している。壁や天井が一部割れている。テレビは倒れてスイッチを入れてもつかない。電気が使えないことがわかる。 ② 一部の人は、自宅の家具の横転や物の落下によって捻挫や軽傷（ガラスを踏んだりして）を負っている人がいる。 マンションでは火災報知機が作動して、鳴っている。どこかの部屋でボヤが発生しているようだ。廊下にでて周囲の様子をみている人が多数いる。エレベーターが動かないので階段で歩いて降りることになる。
自主防災	① 自宅内の状況を確認して、情報収集のため住宅地の被害状況を個々に確認してまわっている。また、一部に火事が発生している個所を発見している。 ② 怪我人がいるとの報告を受けて、被害者宅に向かう動きがある。 各担当者が参集して、自主防災として対応を検討する。自治会内の被害が軽微であったため、避難所・人が集まりそうなところに出向き、情報収集及び救命救助をすることとする。
マスコミ	① 地震について速報を流している。スタジオからアナウンサーが震度などを話している。 ② 各地の放送局からの地震時の報告が流れている。 ③ ヘリが湾岸エリアに飛んで、住宅地・工業団地の火事をレポートしている。地上では、中継車が被害地をレポートしている。 ④ 被害については、時間が経つにつれて、拡大するとともに、詳細なことがわかってくる。 →高速道路では、交通事故・通行止めが発生している。建物の外壁が崩れたり、ガラスが割れたりしている。昭和30年代の古いビルが倒壊している。葛飾区では大規模な住宅火災が発生。京葉工業団地では、化学製造プラントから出火している。各駅では、電車が停止したために人があふれている。帰宅困難者は最寄避難所に避難する人と自宅を心配して帰宅する人々に分かれ、帰宅を急ぐ人は大勢が徒歩で帰っている。

【国・県・海外の対応状況】

項目名	対応の内容
国	① 内閣府において、内閣官房は緊急参集チームを官邸に参集させて、東京湾直下型災害対策本部を立ち上げる。夏休みのため首相が官邸にいなかったが（1時間後に官邸入りをする。）、電話連絡により打ち合わせの上、官房長官が地震から40分後に記者会見を行う。 ② 立川広域防災基地においては物資の搬出準備をする。東京湾臨海部基幹的広域防災拠点については、地理的関係から立ち上がりが遅れる。 ③ 厚生省では、災害派遣医療チーム（DMAT）を神奈川・東京・千葉に派遣すべく準備を進める。各医療機関・赤十字社に対しても同様に指示を連絡する（医療機関に対しては、連絡不通のため遅れる） ④ 国土交通省においては、緊急災害対策派遣隊の派遣準備を進めるとともに、各出先機関（地方整備局）に対して災害復旧のための準備を指示する。 ⑤ 気象庁は震災直後にテレビにて緊急記者会見をして、被害状況を発表する。判定会議を開催するために委員を招集することにする。 ⑥ 警視庁・警察庁・消防庁は各職員が参集し始めている。（6割程度まで進む）
自衛隊	① 最寄りの習志野駐屯地からは、千葉県知事の災害派遣要請がでる前に、各担当地区に対して被害状況の情報収集のために、第一空挺団長が独自に、先遣隊（偵察隊）の派遣をきめる。（派遣先の救援活動のため本来の任務に支障が出るものの、予定地区の派遣をする） ② 基地に集合するように指示がはいる。一部の隊員は、自発的に基地に向かう。 ③ 木更津駐屯地から偵察ヘリが3機、神奈川・東京・千葉方面に飛び立つ。
海外	① アメリカは米軍基地があるため対応が早く、横須賀基地から第7艦隊司令部に情報伝達され、被害把握のためヘリが東京湾方面に飛び立つ。被害情報は、司令部経由でワシントンに送られる。 ② 東京の各国大使館は被災のため機能停止し、大阪の領事館が対応を担うこととなる。また自国民保護のため安否確認・旅客機手配を始める。本国に対して、災害救護隊の派遣を要請する。
千葉県	① 県単位のため、職員の招集に関しては八千代市よりさらに時間がかかる。 ② 危機管理課は担当職員がすでに活動を開始し、情報収集を始めている。 ③ 県知事は公舎より県庁に向かい、震災対策本部を立ち上げる指示を出す。本部立ち上げ後に、国に対して医療チームの派遣要請を行い、自衛隊へは災害派遣要請。
大規模インフラ	① 東京湾直下型地震により、東京電力管内の火力発電所が設備（燃料パイプ等）の破損と液状化により、軒並み運用停止となる。大部分の湾岸地域においては停電。 ② 各電力会社に電力融通を要請するものの、夏場のピーク時ということで対応に苦慮する。（このような対応のためにも原発が臨時に運用できる体制が必要か？） ③ 首都高速道路について、1号線の高架道路は橋脚に一部ひび割れが起きて通行止めとなる。また、車両を一般道路に下ろしたので一般道路は更に渋滞となる。 ④ 大規模幹線道路は災害道路指定となり、一般車の流入を規制するものの、焼け石に水となる。（無秩序状態）

第三章　実施編

1　参加者の避難想定シナリオについて

【地震発生から10分間ストーリー】

地震発生から5分ほど経過して落ち着いたが余震が続く気配があり、強い不安を感じる。電気・水道が使えない。家の中は物が散乱していて子供が揺れで怖いと泣いて訴えている。安全確保を目指して家族で家を出て、避難所として指定されている学校に避難することを決めた。※阪神事例より

【避難途上（八千代緑が丘駅前でのウォークラリーゲーム）ストーリー】

① 自宅から避難している途上において八千代緑が丘駅前広場を通りかかると、店舗から火災が発生しているのを目撃。そこで周囲の人たちと協力をして、探し出したバケツで消火活動を行う。

② 駅前広場にいると、イオンで買い物をしていた人たちが避難してくる。その中の一人から「家に子供がいるから電話したいけれど携帯電話がつながらない。どうしたらいいだろうか？」と質問をされる。家は茨城にありどうしてもすぐに安否を確認したい様子である。店舗で固定電話が無いかと聞くが、お店でも電話はつながらないといわれる。公衆電話のほうがつながりやすいと情報を入手して、公衆電話がどこにあるか調べる。

③ 駅付近を通ると、停車した電車から降りてきた多数の乗客が駅下まであふれかえっている。大勢が怪我をしており、骨折をした人や頭から血を流している人がいる。周囲と協力して救命救助を行うが、その最中に突然苦しみ出す人がでてくる。呼吸が苦しいと突然倒れこみ、胸のあたりを手で握っている。脈を確認すると心臓が停止しているようだ。みんなでＡＥＤを探して、救助する。

【一路避難所の学校へ】

周囲の人達と、どこの避難所に避難するか相談する。多くの人達が新木戸小学校に避難しているが、混んでいるようなので、駅から2キロ程度先にある「みどりが丘小学校」に避難することに決めた。

夏の暑い日で、熱中症にならないように気を遣いながら学校まで避難する。

→途中での出来事

① 八千代緑が丘駅周辺の被害状況を文章で見せる。（今までのウォークラリーでの内容も同様です）

② 八千代台のユアエルムから自宅に帰る人に遭遇して、八千代台での被害状況の話を聞く。「八千代台駅は電車が止まったために、多くの人が駅からあふれている。八千代台の南のほうから火事の煙が出ており、消防車が3台程度走っていたのを見た。また駅前の商店街で建物倒壊があってアーケードの通路が通れない個所があった」とのこと。

③ 北習志野駅から佐倉市の自宅に避難する人に遭遇した。「北習志野駅で止まっていた電車から避難したのだが、地下から地上に上がる時に多くの人があわてて出ようとした結果、将棋倒しになって多くの怪我人がでた」とのことだった。

④ 歩いている人から「東京湾の化学製造プラントから火災が発生して、有毒ガスが放出されているから、早く逃げろ」とメールが来ていると聞く。（チェーンメール問題・デマ対策のため。メールでは有力な情報もあるが、メールを送る人によっては、自分の考えを加味してしまうので、内容が異なる場合があることを周知させること）

※情報チェックポイントがあるので、そこでチーム全体で、記憶させておくことと、被害状況にあるマスコミ欄の情報も内容を提示させることとする。

【避難所に到着する】

避難所に到着した学校の先生方がいるが、地震直後で建物の被害状況・連絡を取ることに追われて、避難者の案内などに人がさけない状態である。

避難してきた人たちは勝手に避難所に入るが、先に到着した人たちから避難所内に勝手に場所を確保しているので、とりあえず自分たちも場所を確保する。

自分達や周りの人達も疲れ切っていて、どうしようかと不安になる。避難所に来るのは初めてで、何をしていいかわからない。

【避難所として課題について】

避難所ゲーム出題として、以下の問題を予定した。実際は、時間の関係により、全部の出題はかなわなかったが、二問ほど出題することができた。ただし、内容については、先生方もこのままでは子どもたちは良くわからないと思うので、簡単にしたほうがよいとのことで、内容は変わっています。ここでは、当初出題をしてみよう考えていた問題をあえて、参考事例として提供することで、幅広く活用していただくために掲載をさせて頂きました。

トイレを使おうとしたら、水が出ない。このまま使用すればトイレが詰まってしまうが、どうすべきか？外に穴を掘るなどして用をたすのだろうか？

≪問題１≫
トイレを使用するために、防災倉庫の水または防災井戸を使うことが思い浮かぶが、実はそのふたつは飲料水として貴重。プールの水を使うのがベスト。みんなで使用できるようにバケツをつかって水汲みをする必要がある。そのほかにトイレットペーパーなど足りなくなる物が多数あるので、問題提起をする。

時間が経つにつれて、避難所にさらに多くの人がやって来る。泣いている子ども、妊婦さんやお年寄りも来ている。その中にペット連れの人がやってきた場合、どのように対処するか？鳴き声やにおいなども問題になるだろうが「家族の一員だから」と言われた場合に、どうしたら良いのか？

≪問題2≫
避難所では集団生活であるため通常のペットは避難所は不可能。ペットなどは避難所に入れず、別の場所に集めるようにするなどの対策が必要。ただし盲導犬や介助犬などは可能とする。

八千代市から届いた救援物資（おにぎりやパンなど）の個数が不明だった場合、どのように配布するべきか？

この問題はもっと子どもたちにわかりやすいように、出題している。

≪問題 3≫
救援物資の個数と避難者数が判明しないと届いた物資をそのまま配布してよいか判断できない。まずは、配布できる個数を確認するとともに、避難者の人数を把握に努める。もしも搬入した個数が足りないようならば、弱者（子ども・老人・障害者）から優先する。

実際の出題については、以下の通り

→水や食べ物がみんなで食べたら一日分しかありません。どうしたらいいでしょうか？

として出題をしました。

避難所内は座るスペースを見つけるのもむずかしいほどに人が増えてくる。知り合い同士は話をしたりするがほとんどの被災者は黙っている。そんな中、見ず知らずの人が自分の家族を探していたらどうすべきか？どうしたら家族を見つけてあげられるだろうか？

≪問題 4≫
みんなで個別に聞きにまわるなどの方法が考えられる。ただ、この後同様に家族の安否確認をする人が多数現れることが考えられるので、避難所にいる人たちの名簿作成について考える必要がある。（家族構成、個々の名前、年齢など）

実際の出題としては、以下の通りとしました。

→足をけがしていたり、お年寄りで足が不自由な人赤ちゃんがいるお母さんが避難してきています。どうしたらいいでしょうかという質問とした。

としました。

校長先生や多くの人たちが来てからも、やるべきことはたくさんある。皆で手分けをしていかないと避難所生活は成り立たない。手分けをして係を決める必要がある。どのような係が必要となるだろうか？

≪問題 5≫
みんなで平等に係決めをしていく。どのような係が必要となるのか皆で考えてみる。
少なくとも、調理班・物資受け入れ班・避難所整理班・救命救助班・情報班などが必要となるであろう。また各々の班でリーダーを決める必要がある。

情報班

情報が色々でまわっている。正確な情報を整理して、八千代市で何が起きているかをホワイトボードに書き出していく。情報の整理も重要。

≪問題 6≫
避難途上で収集した情報を吟味させること。デマや嘘に惑わされないように、正確に情報を整理して書き出させること。※防災教育上重要なテーマです。

地震の情報が欲しいと訴える人がいる場合、どうしたらよいか？

≪問題 7≫
ラジオ、テレビからの情報を流して提供する。皆にわかりやすいように掲示板などでも掲示する。
また、障害者の人にもわかるようにしていく。

避難所整理班

避難所の整理整頓やルール作りなどを担当することになると思われる。食事の配膳や・トイレなど決めなければいけない事柄は多岐にわたる。
電気がつかないまま夜を迎えると暗くて、皆の不安が一層募ることとなる。懐中電灯やろうそくも全員が持っているわけではない。どうしたらよいのか？

≪問題 8≫
防災の方から教わって、キャンドルを作ってみる。キャンドルが必要な個所も確認すること。

皆で生活するうちに出てくるゴミは大量で、市の機能が回復するまで自分たちで処分しなければならない。
どのように解決するのか、アイディアを出し合ってみる。

≪問題 9≫
今回のこのキャンプでは、個人で出したゴミはすべて自分で持ち帰ることになっている。しかし、実際に地震が起きた場合は避難所として出たゴミは回収しなければならない。どのように処分すべきだろうか？

乳幼児や小さなこどもたちは余震と慣れない環境に興奮して落ち着かないなどの事態も考えられる。どのように対処すべきか？

≪問題 10≫
おそらく不安であることと、人が大勢いる環境に慣れないことなどが原因として考えられる。集会室などの別室に移動をしていただく。

物資受入班

ガスや食料品などが順次到着したら、それを受入るとともに個数を確認し整理すること。また調理したものをどうやって配膳するか（食器がないのに）も話し合う必要がある。

≪問題 11≫
お皿などは紙とラップで作れる。

調理班

防災倉庫に行って、防災備品を確認して使用してみる。今回のキャンプでは夜の食事はカレーを予定している。さて人数はどのくらいか？

≪問題 12≫
多くの人数が来ていて、どのくらいの分量が適切なのかわからない。まずは人数を確認して作ってみること。また、あるもので工夫する必要もある。みんなで協力してやってみること。

救命救助班

今回のキャンプは夏の暑い盛りに行われるため、避難してきた地域の人達に声をかけて熱中症になっていないか聞いて回る必要がある。こういった役割をする人たちがいることで助かる被災者が多くいるはずである。

≪問題 13≫
地味ではあるが避難した人の命を守る大事な役割となる。水を用意したり避難物資で届いたスポーツドリンクなどを配付してみる。また、車いす・ＡＥＤ・担架などがどこにあるか把握しておくことが大事。

高齢者や妊婦さん、またその他体調がすぐれない人が出た場合はどのようにするか？

≪問題 14≫
避難者が個々に確保したスペースを整理して通路を作る。またトイレに近い場所を弱者優先とする。避難者の中で医師・ホームヘルパー・介護福祉士・看護師など医療従事者がいないか確認することも必要。

≪2 日目≫
届いた物資を朝食として配布する。パンが来ているが、どのように配付するか？個数と配付方法を確認してみること。実際に行いました。
→　阪神の事例を参考に問題提起し、子どもたちがどのように解決するかを見る。

電気等のインフラが復旧を開始したとの報告が出てきた。皆でお世話になった避難所を掃除・片づけをして家に帰る支度をすること。

2　ウォークラリー実施&マニュアル

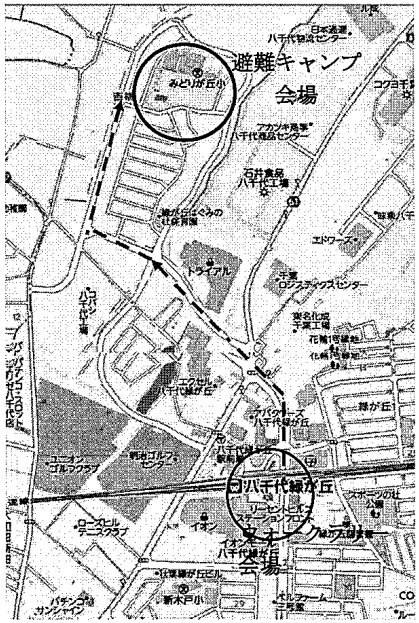
- **基本的な目標**
  次の考え方を基本とした。
  - 子供でも問題が容易に理解できて、地域を回れること。
  - 実践に即したものであること。
  - ２時間程度で終了すること。

- **特徴と参加者に与える効果**
  - 日常の生活地域なので、いざという時に防災効果が期待できる。
  - 普段住んでいる街を舞台とすることで、防災に無関心な住民へのＰＲ効果がある。
  - 問題及び競技を取り入れることで、実践的な訓練を緊迫感とゲーム性をもって楽しんで行うことができる。
  - チーム単位の競技を取り入れて相互に協力することで、いざというときに連帯感が生まれる。
  - 企画及び準備段階において各組織と連携をとっていくことで、円滑な活動推進が図れる。

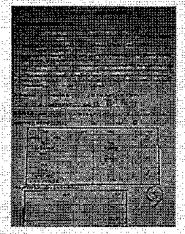
- **コース設定について**
  今回はみどりが丘小学校を最終的な避難所としているため、その周辺地域をコースに設定する。
  （子どもや地域の人達が在宅中に地震が発生したとして避難をするものである。）
  距離的に２キロ弱程度にした。

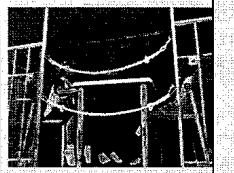
① 自宅
② 八千代緑が丘駅前広場
③ みどりが丘小学校

徒歩距離（平均）
八千代緑が丘駅からみどりが丘小学校まで
1.5 ㌔～2 ㌔となります。



【タイムスケジュール及び内容】

時間	場所	内容
１０：００	各自の自宅 	参加者には事前に案内書を配布し、指示書入り封筒と名札が同封されていることを確認してもらう。 指示書には、地震後の対処すべき内容が記載されているとともに、非常用品のリストが入っており記載する内容になっています。 案内書を見ていいのはメールが来てから確認することになります。
１１：５０～	スタッフ集合	各自準備　八千代市は、１２時到着
１２：３１	各自の自宅 または、外出先	**震度６強の地震が発生！** 12 時 31 分に地震発生の連絡をする。（本部からメールにて参加者に連絡する。この時点から避難して OK。） 参加者に指示書の入った封筒を開封してもらい、ゲーム開始とする。
１２：５０ ① 受付 （5分間隔スタート）	イオン側駅前広場集合 道路側 	各自おのおの一時避難をしたと想定 学校１～２名　自主防災２名　保護者１～2名 集合場所に到着した先着順に５名～9 名程度、知らない人同士でチームを組んでもらう。（全 12～13 チーム程度） 説明事項・注意事項を確認し、また安全確保の説明をする。 ゼッケン・チームの指示書・筆記用具を配布 1. 避難前に自宅で行ったことについてのアンケートを実施して、点数評価（置手紙・ガス・電気など） 2. 非常持ち出し物確認テストを行う。（自主防災の方に、どの物品を持ってくれば点数を付けるなどの打合せが必要）
１２：５５ ② 消火バケツリレー	駅側テナント側敷地	テナントで火事が発生したとの想定で消火訓練を行う。 係員１名　（父親の会から）　自主防災１名（チームにつて評価） 防火バケツリレートライアル（噴水広場の水を使用する）

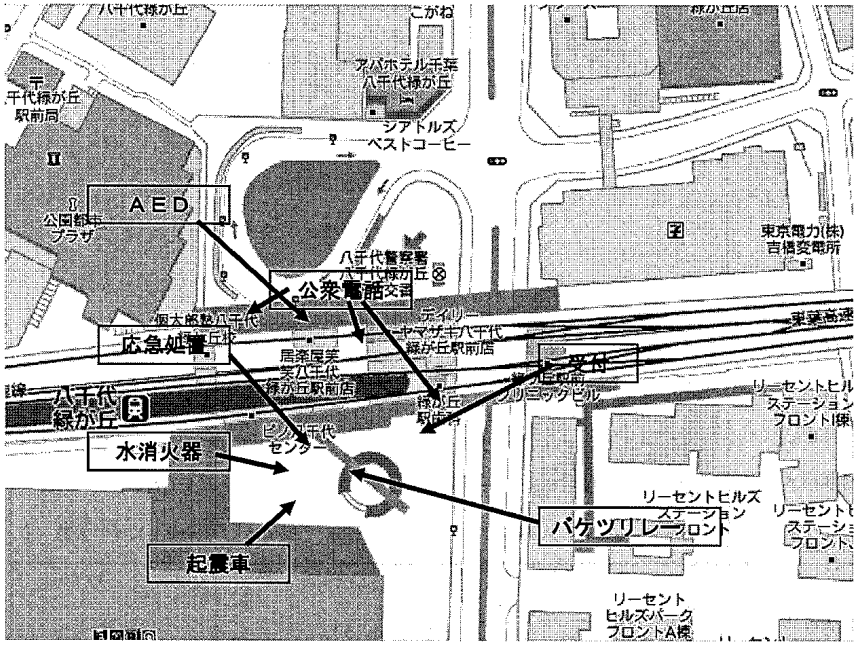
		噴水からバケツで水をくみ出して、テナントの火事を消火すると想定して、バケツから大きい水槽に水を満水にさせる。 水槽２個用意する。学校支援 バケツ　八千代市準備
③ 起震車体験	イオン側 	到着したチームから順次地震体験（起震車）をして頂く。 人員　八千代市総合防災課
④ ＡＥＤ・公衆電話発見ゲーム	イオン入り口 バス停付近	非常時に繋がりやすい公衆電話を 2 か所探す。 チェックポイントのみで、チェック用ハンコなどを設置。 ＡＥＤ発見ゲーム　低学年向け
⑤ 応急処置訓練 八千代市医師会より医師派遣 （13 時～14 時）	駅ホーム下 ヤマザキデイリー側 	怪我応急処置訓練 地震により脱線した電車の乗客（怪我人）の救護にあたるというシミュレーション訓練を行う。 協　　力：八千代市医師会 負傷者役：八千代西高校生徒 みどりが丘小学校保健担当（朝長先生） 評価　医師会　緑が丘小児科クリニック医師　予定 骨折をしたとの内容で行う。（止血などは伴わない）
⑥ 消火器による消火ゲーム	交番側噴水前 	消火器を発見して、消火します。 八千代署

ウォークラリー後のゲーム

時間	場所	内容
１４：００ 駅前での最終時間		以下の情報取得ゲームを行いつつみどりが丘学校に向かい、必ず 15 時までには到着するものとする。
⑦ 情報取得ゲーム	アクトヒルズ床屋前 トライアル十字路付近 保育園十字路付近 保育園から学校まで	1. 緑が丘の被害状況告知 2. 八千代台での情報取得 3. 北習志野での情報 4. デマメールの情報
１５：００	避難所開所式	避難所設定の説明 高宮校長　開所式の宣言 八千代市防災課　自主防災挨拶

【地図】

駅前



【係・担当】

場　所	人 数	内　容
受　付	2	動作・安全確認・案内　参加者への指示連絡
バケツリレー	1	バケツ配置
起震車	3	八千代市総合防災　受付・注意事項
救命救助訓練	１～２	アドバイス　八千代市医師会　緑が丘小児科　間崎医師
	３～４	負傷者役　八千代西高校　予定
消火器ゲーム	1	八千代署（睦分署）
みどりが丘小	1	学校職員　ゴール時間　タイム計測
合　計	１４	みどりが丘小学校・保護者・自主防災・防災ボランティア・八千代医師会

【用意する物】

品目名	個数	備考
案内書	１０	ウォークラリーチーム分及び係員
のぼり	１０	
チェックカード	参加人数分 １０	参加者人数分 チーム分
バケツ	5	
桶	2	バケツリレー用
応急処置訓練道具	1	包帯・添え木
ブルーシート	2	応急処置訓練にて利用
毛布	2	応急処置訓練にて利用
非常持ち出し品目	未定	チーム分のセットをして、選択させる。
参加者用名札		参加人数分、名前はわざといれない。
筆記用具	１５	チーム分及びチェックポイント分
表彰状	3	優勝・おしかった賞

【スコアの設定】

スコアポイント	内容	ルール
トータルタイム	イオン駅前広場をスタートしてからみどりが丘小学校でゴールするまでの時間を計測し、所要時間の速いチームを優勝とする。	ゴールのみどりが丘小学校のアリーナ受付をゴールとして、タイムをはかる。 基本は、短時間で避難できたチームの上位をスコアとする。 ただし、怪我人が発生した場合は減点対象とし、ゴール時間に対して、＋１０分を加算する。
消火ゲーム バケツリレー	駅前噴水から、簡易水槽が満水になるまで水をくみ出す。	普段経験したことがないバケツリレーで、どのようにスムーズに水を運ぶか？チームでの役割分担が鍵となる。
応急処置ゲーム 駅でのＡＥＤ発見	電車が地震により脱線して、乗客が負傷。多数がバスロータリー側に避難し、これを救助をするとの想定で行う。非常時の対応について判断する。 ① 応急処置ゲーム ・ 適切に処理できた （添え木・雑誌などを利用してタオル・ネクタイなどで縛るなど） ・ チームプレイでできた （一人だけで行うのではなく、チームで行うことが重要とする） の２チームを表彰する。 ② 駅周辺からＡＥＤを発見して、処置するゲーム	災害時は、あらゆる物品を利用して救助することになる。思いもつかない物やアイディアがいざというときに役立つことを実感させる。 ① 負傷個所：右足の太ももからの出血と骨折を想定。 出血のしるしと、動作すると痛がるなどの演技が必要。 ② 改札口の階の自動販売機にＡＥＤが設置されている。これを発見して心肺蘇生を試みる。
消火器・消火設備および公衆電話発見	消火器　テナント 消火栓　ロッテリア前 合計個数を見つけるまで行う。（タイム競技） 公衆電話発見	ポイント係から捜索範囲の地図を渡し、必要な個数をチーム全体で捜索する。チームプレイで探しても、また他の人に聞いて見つけるのも OK とする。（災害時は知らない人との協力も必要なため）

スコアポイント	内容	ルール
消火ゲーム 消火器マト倒しゲーム	各チームに１器の消火器を渡して、チーム代表（年齢別　成人１名子ども１名）の２名で行う	使用した消火器は係員が再度セットする。 事務局からの取り扱いについての説明や練習は一切なしで行う。 日ごろの消火器の知識を問うもの。子どもは見たことも使用したこともない可能性があるが、大人が適切にわかりやすく教えることができるか？

【注意】

なお、今回はこのような参加者向けにスコアをつけるガイドラインを作成しました。ただし、合同会議上で、保護者会より、タイム競技などを無理に実施すると、走ったり、無理をした場合に子どもが怪我をすることになるので、タイム競技などは採用しないで欲しいと意見が出ました。そのため、ウォークラリーにおいては、スタンプを押して行く方式に切り替えて、今回はスコアの算出は行いませんでした。

3　避難キャンプ実施＆マニュアル

【基本的な目標】

次の考え方を基本とした。

・親子参加で、子供を中心に作ったり、親子での共同作業を中心にすえた避難所設営ゲームとした。
・実践的に即したものであること。
・安易で危険を伴いつつ、安全性が確保できるものとする。
・いろいろな人が参加する中で、おのおの経験が生かせるようにして、互いを尊重し合う関係を作り出す。
・参加者の一人一人に意見を聞きながら、共同生活をするうえの問題を解決できるようにしていく。

【特徴と参加者に与える効果】

・日常の生活地域なので、いざという時に防災効果が期待できる。
・普段住んでいる街を舞台とすることで、防災に無関心な住民へのＰＲ効果がある。
・問題などを出すことで、緊迫感作り出していくことで、実際の災害時に近いものとします。
・チーム単位の競技を取り入れることで、相互に協力をすることで、いざというときに、連帯感が生まれる。

【避難所設営について】

避難所設営というと、初めての方が多いので、司会・進行役として、問題を与えたり、ヒントを出す必要がある。そのため、避難所設営に対する理解と経験者の意見を聞く必要がある。また、避難者としての集中度及び共同生活へのストレスなどにも配慮が必要である。

今回のみどりが丘小学校としては、個々の個性が強い新興住宅地であることから、各自の意見を聞くことが重要であるが、避難所としての特性がある以上、共同作業・生活であることが優先されることから、意見を調整していくことで、避難所ルールを確立することかぜ望まして思われる。そのため、ホワイトボード・ペン・付箋などの筆記用具・書記係が必要と思われます。

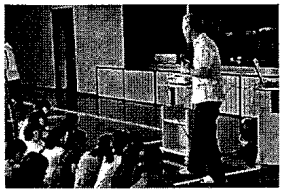
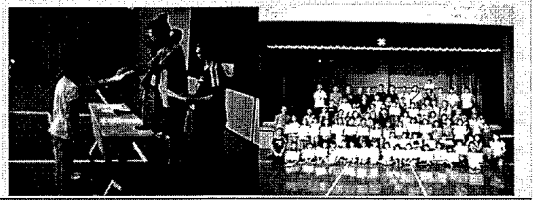
【司会者としての注意について】

① 避難キャンプ参加者のモチベーションを継続させて、緊迫感、集中力、悩み、発言、笑い、疑問などを通して避難キャンプを成功させる。
② 司会進行役としては、疑問や課題の投げ掛け・常に発生するかもしれない、問題に避難者としての問題を答え出すことで、参加者に訴える必要がある。
③　参加者のチームから、自然とリーダーシップをとれるように主導する。これは常に避難所を設営するうえで、大事なキーパーソンとする。ただし、リーダーとして名乗りをあげた人が、他の参加者が「支持」していないときには避難所の設営が上手くいかないことになるので、その場合は、その人を抑え気味にする必要がある。
④　避難所設営時の問題掲出に当たっては、各自に意見を聞くとともに、付箋などによって、問題内容を記載して、ホワイトボードに貼る。また、問題内容は声に出すことで、他の参観者に聞いていただいて、問題を共有するようにする。類似問題があれは、手を上げていただいていく。

【タイムスケジュール】

時間	場所	内容
１５：００	避難所設営開所式 説明・状況シュミレーション	アリーナにて校長挨拶・来賓紹介・防災倉庫説明
１５：３０	防災倉庫探検	普段みことがない防災倉庫を探検してみよう
１５：３０	親子で作成タイム キャンドル	非常時に必要となる。紙食器を作成する。夜間において必要となるキャンドルを作成する。
１６：００	みんなで防災について話をしよう。 物資搬入 （ちばコープ・石井食品）	地域の人達とのコミュニケーションを取りながら、防災について勉強します。
１６：３０すぎ	調理タイム ガス発電機による実演	ある食材で作ってみよう！！ 今日の献立はなんだろう？ 避難してきた人数は何人かな？

１９：００	夕飯	配膳方法について勉強しよう！米・カレー（予定）
２０：００	避難時運営ゲーム	① 高齢者の方々への支援や避難場所は？ ② 食べ物がないときどうしたらいいか？
２０：００	キャンドルタイム	みんなで作ったキャンドル照らしながら一日を振り返ります。
２１：００	自然観察会	天体観測（暗闇での物を探すゲーム提案もあった）
２２：００	就寝	皆で就寝しよう！朝は早く起きようね。
６：００	起床	起床・洗顔・体操（平澤先生）

６：３０	配給	支援物資で朝食を！！配布から食事まで
７：３０	朝食時間	みんなで車座で食事
８：００	後片付け	避難所を片付けて、清掃をします。
８：３０	異常気象について	気象庁の方から異常気象や大雨の時の注意すべきことについて。 
９：３０	閉会式 帰宅	アリーナにて閉会式・修了証交付式 アンケート記入・解散 

【係担当】

役割	場所	人数	内容
本部	入り口近く	2	参加者への指示連絡（受付・説明の方でも可）
進行補助	アリーナ内	1	アリーナ内に配置して避難所として混雑差を出す。
受付・説明	入り口	2	受付・注意事項説明
チェック係	アリーナ・班配置	2	問題に対して、進行補助などをする。
問題提起係	アリーナ	2	避難所の問題提起
班別対応係	アリーナ	１０	受入班ごとの確認及び指導
合計		１９	

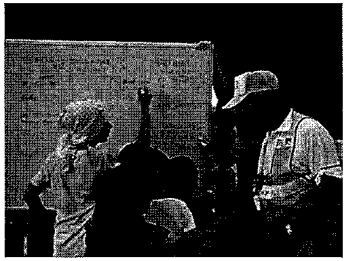
【用意する物】

品目名	個数	備考
ホワイトボード	１	
ペン	２０	
問題提起カード	２種類	
鉛筆	１０	
紙	１５	

4　自主防災隊との対話ついて

自治会組織の自主防災隊の人達（朝などのスクールガード、横断歩道などの安全見守りが中心）が参加して、災害について話をしながら、子どもたちの意見を引き出しています。また、学校側からも先生がやると授業のようになってしまうので、地域の人達との交流になるのも評価されました。

子どもたちが自由に意見を出して、いきました。もしもの時に何があると便利かは？色々な解答がでましたが、子どもたちの視点からは良い内容ではないかと思います。

もしも地震があったらどうする？	水があったら何ができる？	もしもの時に何があると便利？
壁の近くに近寄らない	皿洗い	スリッパ
裸足で歩かない	トイレ	懐中電灯
すぐ外にでる	手洗い	防災ずきん
見晴らしが良い場所にいる。	火事の消火	ラップ
机の下にかくれる	洗濯	タオル
大人の言うことを聞く	植物の水やり	ティッシュ
長い靴下をはく		ラジオ
無茶をしない		ロープ
走らない		タオル
落ちそうなものは避ける		筆記用具
電柱の近くに行かない		ラジオ
ふざけない		非常食
防災ずきんを使う		雨具
手袋をする		おもちゃ
広い場所にいく		たべもの
ガラスから離れる		軍手
ヘルメット		ビニール袋
		ヘルメット
		笛
		ペットボトル
		充電器
		紙コップ
		カメラ？？
		水歯磨き
		バンドエイド
		マスク
		パンツ
		ちり紙

5　子どもたちの出した答えについて（避難所運営ゲーム）

1．はじめに

今回は、高宮校長先生の発案から、1～6年生と、保護者や地域の人も立ち合うのだから何かみんなで話がでないかな？ということで、この「ミニ集会」方式にして、チーム単位で防災について話をと考えました、災害時において子どもたちがどのような対応をするかなど初歩的な質問を提起して、子どもたち同士でどのような答えを出していくのかが、知らない人達と一緒に考えて、いくもので、参加した保護者からは、子どもの成長を感じたり、いい印象に残っています。

当初は、質問については、四問を提示する予定であったが、学校側の安全担当の小湊先生から子どもたち（低学年から高学年に及ぶ）において考え方の幅があるために、あまり数が多いと、時間内で終わらないことも可能性があること、ゆっくり考えさせることも大事であることや、絞って出したほうが心に残るのではないかとの提案を受け、先生側で今回の二問に絞って行うこととした。

2．質問への解答結果について

①水や食べ物がみんなで食べたら一日分しかありません。どうしたらいいでしょうか？

ちょっとずつ食べる	一気に食べないで、何日分にわけて食べる
時間をきめる	なるべくうごかさないで、おなかをすかせないようにする。
地震がないときに買う	体がよわってる人を優先にあげる。
一日一回にする	すこしづつ食べる
ゆっくりたべる	朝まで我慢する
少しづつたべる	一食分を何等分かにわける
じかはつでん	残した分を食べる
野草をとりにいって食べる	残したぶんをたべる
あんぜんなわき水をさがす	一日分をのこしておく
みんなですこしずつわけあって食べる	考えながら食べる
たべる日と食べない日にわける	一日分の半分を食べる
今日食べる人と今日食べない人をきめる。	１人分を四人で、わける
食べ物がないときには、どっかに買いに行く。	ぎりぎりまでがまんする。
みんなで少しづつ分け合って食べる	子ども優先
みんなでわける	みんなで少しづつわけあって食べる
買いに行く	おなかいっぱいに食べない
みんなでわけてそれを朝・昼・夜にわける	あまりおなかがすいていなかったら、無理しないでほかの人にわける。
みんなで食べ物を探しに行く	水を残すように飲む、一度に全部飲まない
電話で食べ物をもらう	食べ物を一口ずつわけて食べれる回数を増やす
一日一食にする。（三日分）	食べたり・飲むときは、小さい子やお年寄りを優先として食べたり飲む。
限界まで我慢する。	
みんなで分けて食べ方は、個人に任せる	
ギリギリまで食べないで、がまんする。	

③ けがをしていたり、お年寄りで足が不自由な人赤ちゃんがいるお母さんが避難してきています。どうしたらいいでしょうかという質問とした。

子どもたちは、１年生から６年生まで意見を活発に出していたのが特徴です。やはり、ウォークラリーなどを体験していくことで、意見を出そう！という気持ちが前向きに働いていた結果だと思います。

赤ちゃんがいる。お母さんたちは、バラバラではなく、一つのところにまとめる	優先してあげる
お年寄りや不自由な人、赤ちゃんがいるお母さんたちは、空き部屋があったら移ってもらう。	安全な場所を教えてあげる
いま必要なことを聞く	治療できる人を探す
いろんなことを優先してあげる	心ずかいをきちんとする。
広い場所や食べ物をあげる	肩を貸してあげる
お笑いで楽しませる	手伝えることはありますか？と聞く
病院に連れていってあげる	おじいさんをおんぶしてあげる
安全な場所へ運ぶ	赤ちゃんには、おもちゃを貸してあげる
荷物をもってあげる	食べたものや飲みものをあげる
怪我の手当をしてあげる	助けてあげる
すすんでお手伝いをする。	声をかけてるあげる
見守ってあげる	荷物をもってあげる
助けを呼ぶ	助ける
赤ちゃんをだっこしてあげる	元気な人に声をかけて、みんなで力をあわせて協力する。
手伝ってあげる	何が必要なのか、聞く
怪我をしないように守ってあげる	あぶないものがあったらどかす
怪我をしている人は手当をしてあげる	応急処置をしてあげる
話をかけてあげる	足をけがしている人や、お年寄りで足が不自由な人は、トイレに近くて、行きやすいところに分ける
足が怪我している人をたすける	赤ちゃんがいるお母さんに対して、段ボールで壁をつくる
できるだけ優先する	その人たちを優先して食べ物や飲み物を送る
手伝いをしてあげる	みつけたら手助けをしてあげる
道具を用意してあげる	赤ちゃんが泣いて、嫌な顔をしない
あたたかく見守ってあげる	赤ちゃんの世話をしてあげる
車いすを使う	足が不自由な人に、道を空けてあげる
入口に近いほうにいる	
つきそいをする	

この、防災についての「ミニ集会」は、先生があまり輪に入らず、チームに任せる形式で進めていき、お互いに尊重し合って共有していく過程が重要との認識でいました。子どもたちにとっては、ただ、問題を解くだけでしたが、プラスαがあったのはこの時だったと思っています。

第四章　結果編

1　参加者の感想について

アンケート（大人向け）避難キャンプ実施後のまとめ

１．はじめに

このアンケートは、８月４．５に行われたキャンプについて、参加者から意見聴取である。また、教職員のアンケートも聴取してまとめたものです。

アンケート結果から、次回にキャンプを行う場合の参考資料・改善を図れることを目的としている。今後、結果を分析して、防災教育に関する身近な参加が多数あるようなキャンプ作りに結び付けることが目的となる。

２．アンケートの概要

アンケートに関しては、主に参加した保護者に対して、行った。また、児童に対しては、絵付の感想文を提出していただくことにました。

３．アンケートの方法

①調査対象地域　八千代市立みどりが丘小学校学内
②調査対象者　八千代市立みどりが丘小学校の児童及び保護者
③配付数　３５部
④調査方法　児童に配布して、保護者記入により回収する
⑤実施時期　９月３日配付　９月１０日回収

４．調査内容

①避難キャンプの感想
②避難キャンプから感じたこと

５．アンケート回収結果

配付数　３５部
回収数　１７部
回収率　４８％

６．アンケート結果ついて（記入して頂いた結果をそのまま記載する。）

① 参加について（今回の参加した理由を教えてください。）

→いざという時のため、避難生活とはどのような感じなのかを体験してみようと思った。子供にも体験を通して、災害を意識してもらえると思った。
娘に誘われたため
子どもに体験をさせたかった。

学校にどんな防災器具があるか知りたかった
地域とつながるいい機会だと思った。
子どもが「行きたい」といったから
防災意識を強く持つことが大切と考えたため
昨年の新木戸小での様子をお聞きしながら、避難所のあり方を考えたいと思いました。また、子どもにも考えさせたいと思いました。
災害が起きた時に皆で助け合うことの必要性を子供に教えたかった。防災対策として、普段家族で話し合う機会が無いため、これを機に備えをしていきたいと思います。
地震や防災について、学びたいため
実際に災害等が発生した避難が必要になる状況に合った場合の備えとして、体験しておきたいと思いました。
いってどんなことをやるのをしりたかったからいってみた
避難所での生活をちょっとでも体験することで、日頃から何を準備し、避難所では何が必要となるか、認識しておきたいと思ったから。
家族で参加できる、日頃の意識のなさをみんなで考えたい。
プログラムにとても興味を持ちました。
いつ起こるか、知れない震災の前にしておくべき準備はなんなのか子どもとともに考えたいと思ったため。

② 緑が丘駅広場でのプログラムについて教えてください。

ア、どのプログラムが一番印象にのこりましたか？該当箇所に○と、理由も書いて下さい。
バケツリレー・消火器ゲーム・公衆電話・ＡＥＤ・起震車・応急処置

→ バケツリレーは、初めてだった。
起震車を止めてしまったこと。
改めて、設置場所と認識できてよかった。
応急処置訓練　消火器ゲーム
公衆電話の場所を確認できてよかった。
参加後に子供がＡＥＤに興味をもって感謝している。
バケツリレーで水があんなに重いとは思わなかった。
子どもに公衆電話の使い方を教えてなかったことに気づけた
応急処置、専門的な道具がなくて、出来る処置方法を知り勉強になりました。
消火器の水がいきおいよく出て面白かったです。
バケツリレーで、子どもたちが水びだしになりながら、一生懸命水運びをしていたところが良かったです。
ＡＥＤについて子供と話すこともなく、意識していなかったので。

イ、 参加したプログラムで改良して欲しい点がありましたか？該当箇所に○と、理由も書いて下さい。
バケツリレー・消火器ゲーム・公衆電話・ＡＥＤ・起震車・応急処置

→ とても覚えられない、メモ的なものが欲しかった。
携帯電話が普及しているので、公衆電話の重要性を感じていませんでした。
応急処置は、忘れてしまったので、説明書を配ってほしい。
応急処置は、外でさわがしいなかであまりきけなかったので、じっくり教えて欲しかった。

ウ、今後このようなプログラムがあったらと思うアイディアがありましたら書いてください。

→ ＡＥＤを実際使用する訓練　ＮＴＴが行っている伝言ダイヤルの吹き込み訓練
ＡＥＤを実際使用する訓練　実際に火を起こして、消火を行う訓練
ＡＥＤを実際に使うところを見学したい。　担架の作り方
限られた物資を使い、少しでもストレスが少なくなる場所の作り方（プライバシー確保・寝る場所確保など）

③ 避難所設営についてお尋ねします。

ア、 防災倉庫探検（見学）を行いましたが、良かったこと、感じたことがありましたか？

→ 多数の人が避難したら、これで足りるのかと不安に思った。災害後にすぐ避難するのが良いと感じたが、避難場所は最終手段と言っていたことに驚いた。
防災倉庫での備品を出した時に、ゴミが発生しないの様にしておいたほうが良いと感じた。初めて見学ができて、比較的にしっかりしたものが設置してあって安心したが、全てがまかなえないことを知って、自分達でも備蓄の重要性が改めて感じた。　丁寧な説明だった。
いざという時に、組み立てが一般人でできるかが心配になりました。
何が備蓄されているかを知れて、ずいぶんおちついて行動できると思います。
炎天下の見学はきつかった。たくさんの物資があることが確認できてよかった。
備品の数が少ないと感じた。
学校に行けばすべてが揃うというわけでなく、用意できるものは自分で準備する必要性を感じた。
様々なことを想定して、物資を保管しているのだと感じた。
防災倉庫に何があるかを知ることができたのは良かったと思います。そして、防災倉庫がなくて、必要な物を考えておかないといけないと思います。
救急箱やお鍋が入っていたことがびっくりました。（児童）
初めて、防災倉庫内に保管されている物を見学することができて、とても参考になりました。
実際の中をみれて、説明も聞けて良かった。
トレイの設営などもやってみたかった。
見学をして使い方を知ることは、大切な事だと思いました。

イ、 緑が丘自主防災隊から八千代市防災ゲームを行いましたが、良かったこと、感じたことがありましたか？

→ 再認識がすることができた。
大勢でアイディア・意見が出た、また様々な発想が聞けて楽しかった。

子どもたちに楽しみながら考えさせて、とてもよかった。
地元の方たちからお話を直接お伺いすることができてよかったと思います。
子どもたちがゲームを楽しんでいました。
「スクールガードのおじさんだ！」とリラックスしていたようでした。
子どもたちへ発言させるスタイルなので、飽きず取り組めた。
地域のコミュニケーション作りに役立つと思う。
子どもたちが、防災について考える機会としてよかったと思います。
クイズを出してくれて、自分たちでかくのがおもしろかった。
自主防災隊の方々と交流をもてたところがとても良かったです。
ボランティアでいつも地域を見守っていただける事に、感謝してこれからも交流をもてたらと思います。
思っていた以上に、子どもたちは防災について考える事を知りました。ありがとうございました。

ウ、 キャンドル作成をしましたが、良かったこと、感じたことがありましたか？

→ サラダ油でキャンドルが作れることは知らなかった。災害後などの停電時に使えそう。
実際に使えることを知ってよかった。
このようなキャンドルの作り方があることを初めて知った。
非常時に役に立つと本当に思った。
こんな身近なもでサバイバルグッズが作れるとは驚きました。子供のよろこんでいる姿が印象に残っています。
何より子どもたちが楽しそうだった。
事前に、もう少し、詳しい説明があるとなおよかったと思います。火がつきにくかったので。幻想的で、とても素敵でした。
身近なもので、作れることができることに感じた。
作り方のわからない子供に対して、上級生が教えてくれたり協力して取り組めた。
食用油でもキャンドルが作れることに驚いた。
キャンドルの手作りのようなことは、いざという時の貴重なノウハウの一つであること感じました。
家であるもので、かんたんに作れるので、いざという時にやってみようと思った。
身近かな物でキャンドルができ、とてもためになりました。
小さい子どもがいると危ないと感じましたが、明かりの大切さ、身近なものでつくれる事に驚きました。
子どもたちがとてもうれしいそうな表情でした。

エ、避難所として想定した、夕食作りをしました。カレー・ご飯で、良かったこと、感じたことがありましたか？

→ ゆでることで、お米ができることは知らなかった。カレーも甘口・辛口も用意されて良かった。

発生したゴミなどの処理はどうするのだろうと思った。
皆で楽しく、おいしく食べられてよかった。しかし、非常時何も無いような時を想定した夕食でもよかったかな
値段の高い、非常食しかしらなかったから、袋と水でお米をゆでてごはんが炊けるとは、驚きでした。個人的に購入したいくらいです。
大きな皿がなくなって大変でした。非常時はこんなものですよね。きちんと並ばず、割り込みをされる方もいて、辟易しました。
ビニール袋でご飯が炊けるなんて、すごいと思いました。やってみてよかったです。カレーが足りなかったとは知りませんでした。食べられなかった皆さんごめんなさい。
ご飯は、水加減の影響をもろに受けますね。私のはやや柔らかめでした。
ラップを使って、食器を汚さない食べ方が、すごく良いと思った。
皆で夜空のした、座って気持ちよく食べられた。
ビニール袋でご飯が炊けるなんて、驚いた。
とても豊かで美味しい食事をとることが出来ました。炊飯は、初体験で勉強になりました。とってもおいしかった。
袋でご飯が炊けることは驚きましたが、お餅のような食感で、とても食べずらかったです。ご飯炊きはもう少し工夫が必要と思いました。
実際は、あんなにあたたかい、美味しいご飯を頂けないだろうけど、スタッフのみなさんにおいしい手作りカレーに感謝しています。
お米の炊き方は、勉強になりました。米をいれる漏斗などは、空のペットボトルや、カレールーの空箱で作ると良かったかもしれないと後で思いました。
殆ど、先生方の作っていただき、申し訳なく思いました。

オ、みんなで夕飯をとりましたが、食事の内容や、みんなと食べた感想を書いてください。

→ 高学年は、大人用の器がよかった。
食事は、美味しく頂け満足しました。皿を持参していたので、それを使用すればよかった。

先生の分を作りたい、人の役に立ちたいと、たくさんの子どもが感じているのだなと感動しました。先生に「ありがとう」と言われた時、本当にうれしそうだった。
一番楽しかったです。子供の「友達と一緒に食べたこと」はとてもよい思いでになります。
地域にコミュニティにもよかったと思います。
カレーは、大変おいしかったです。いつもは小食な娘が、おかわりをして食べるほど、皆でいただくカレーは特別においしかったです。
災害時は、カレーは作れるのでしょうか？
予算以上においしく、量の多いご飯が出来たことに驚きとカレーの出来ばえに感動しました。
他の父兄の方々と話をする機会が出来た。
子どもたちは普段よりも食欲があり、とても喜んでいたようでした。ラップをしいて食器を使うというのも、やはり今日知った貴重なノウハウの一つでした。
みんなでワイワイ楽しく食べれました。
みんなで野外で食べる食事は、とてもおいしかったと思います。先生やスタッフの分は、

別にとり分けておく必要があると感じました。また、器等は、各自持参でよかったと思います。
うまく全員にくばる難しさや、ラップが少なすぎたり、穴が開いて結局お皿が汚れたので意味がなかった。
全員で、盛り付けが届いているか確認してから、いただきますの挨拶などをしたらよかったと思います。丁度、食べ物は少なくても分け合うミーティングをした後だったので、足らない不満は出ない思います。

④ 参加した人達で、みどりっ子1000ヵ所ミニ集会をしましたが、この時の感想を教えて下さい。

→ 子どもたちが、自分で考えてまとめるということが、非常に良い経験になったと思う。
問題に対して、話し合う力、まとめる力がついてくるのがわかり成長を感じた。皆で話し合う時間はもっと増やしても良かったと思う。
初めてのお友達・家族とグループを組んで、話し合う、なかなかできない貴重な体験でした。
万が一のことを想像して、弱者の事を考えて上げられる子供たちの発想力に感動しました。
みんな真剣に取り組んでよかったと思います。
それぞれの、チームで学年ごとのバランスを考慮してもよかったかと思います。
「赤ちゃんがいるお母さん、足の不自由な人、お年寄りが避難してきました。私たちにできることを考えましょう」という問題に取り組んだ時に、何をしてほしいのか何が必要かを聞いて手助けする。赤ちゃんが泣いても嫌な顔をしない等、とても素晴らしいアイディアが出たことに関心しました。お笑いで、楽しませてあげるという発想がとてもよかったです。
普段話をしない、上級生や別のクラスの子どもたちが集まって、一緒に考えて回答していく機会は、なかなかないので、団結力が高まった気がする。
子どもたちが上手に進行し、積極的に考え発言していて良かったと思います。
大人のちょっとしたサポートを得ることで、子どもたちはは、子どもたちなりに考えた意見を月々と発表することができ、とても良かったと思います。あの短い時間でも、まとめあげる力も身に付いたと思います。
いつも話したことのない、親子でも意見を言い合ったりできたのがよかった。
子どもたち様々な意見を上手にまとめられずに、話し合いの進め方も上手にできず、難しかったです。

⑤ キャンドルを点けてみんなで、一日を振り返りましたが、その時の感想を教えてください。

→ キャンドルを灯しながらだったので、とても印象にのこるものでした。
皆が色々なことを感じたんだと思った。
キャンドルを灯りだけで、子どもたちも静かにしており、皆で一日の振り返りが出来ていたと思う。
とても、神秘的な空間でした。自分たちが作ったキャンドルに火がともった時の子どもたちのうれしそうな表情が印象的です。一つにまとまったような空間で、あたたかい、空間でした。一つでは、弱いあかりでも、みんなで、あかりをたせば、あんなに明るくなる事を学べて私も感動しました。
みんながちゃんと意見を言ってくれたことがとても印象的でした。我が子がたくましく、なったと思った両親が多かったと思います。
とても素敵な企画でした。遅い時間でしたが、子どもたちは眠たがることなく、目がキラキラ&ランランとしていました。
光のありがたみを感じた。
キャンドルの作り方を是非覚えておきたい。
暗い体育館の中で、小さい輪のあかりが、とてもキレイで、一日の色んな体験や出来事がよみがえってきたと感じた。
キャンドルの美しさもあって、雰囲気であったと思います。
みんな積極的に感想を述べて、とても素晴らしいと思いました。
とても、キャンドルの火がついて心の落ち着いた時間でした。
自分で作った、キャンドルにとても喜びを感じている様子で、「私のは、みんなより火が小さいけど、ゆらゆら、ゆれないで、ずーっと長く明るいんだよ」と言っている子の言葉が印象的でした。

⑥ 初めて、天体観測を行いましたが、その時の感想を教えて下さい。

→ 子どもたちには、良かったと思います。
曇ってて、残念でした。
家族で楽しめて、月のクレーターが綺麗でした。
雲が出て、あまり観測はできませんでしたが、子どもたちが楽しそうにしているのでよかったです。
月面のクレーターを生れてはじめて見て感動しました。
月がみれてよかった。
立派な観測機械で、月以外もいろいろ見たかった。
月が大きくてきれいに見えました。とどきそうな感じでした。
月のクレーターをみることができ、とても感動しました。
いつもできないことが体験させてもらえたのが、よかった。
初めて、見る明るい月に感謝し、何度も何度も繰り返し見ました。

⑦ アリーナで就寝をしましたが、その時の感想を教えてください。

→ 走り回っている子どもがいたので、困った。走るのは原則禁止にしたほうがいい。
アリーナでの就寝場所について区割り説明がもっとあれがよった。
蚊がきになり、あまり良く寝れなかった。
比較的に良く寝られた。もっと暑い時期・寒い時期なら厳しかったと思う。
子どもが、「興奮して、眠れない」となかなかねつけないようでした。しかし、実際の避難した時には、違う意味で眠れないと思いました。

寝袋しか持参しませんでしたが、想像よりねやすかったです。
夜中、見回りをしてくださった先生方に感謝しています。
蚊取り線香が消えてしまいました・・・・
差し入れられた段ボールを一家族が多く取られる方も見られたのがちょっと残念でした。
疑似避難訓練でもあり、協力。工夫して不自由さを少しでも快適にする意識が大切と　思います。
案外寝れるものですね。しかし、一泊だからそう言えるのであって、被災地の皆様の御苦労の何文の一もわからなかったと思います。
背中が痛かった。
テレビでよく見る避難所で寝ることの大変さを身にしみて感じた。プライベートもなく、背中が固いので、なかなか眠れなかった。
段ボールを下に敷くと、十分なクッションとなるのが、分かった。
床が固い、暑い、人が多くて狭い等、色々な厳しい環境を予想はしましたが、普段は恵まれた環境で過ごしているため、アリーナのような所で眠れるようになるには、慣れるまで時間がかかりそうです。
床が固くて、寝袋を使っても痛かった。
裏庭の芝生にテントを張っての就寝でした。芝生は、とても寝心地が良かったです。
段ボールをひいて寝袋でも体がいたかった。
歩く人の足音がとてもひびかいたので、もっとお互いに気を付けないといけないと感じた。
沢山の荷物を持っていきましたが、段ボールにバスタオルで眠れますね。鈴木さん・先生方には夜の間も、体の心配をしていただき、ありがとうございました。

⑧　朝の食事の配給と、食事について感想を教えて下さい。

→子どもたちもよく手伝っていて、よかったと思った。
配給方法は、あらかじめ並べて置き、全員が一列になり各自取っていくほうが良いのでは？
パンとスープがきちんとあったので、非常時を想定するならば十分
子どもたちがそっせんしてお手伝いをしたことが印象に残っています。
クロワッサンをおいしく頂きました。
物足りなさを感じました。被災すると、こんな程度、あるいは、これ以下の食事と知り、今の日常のありがたさを再認識しました。
量が少なく感じたが、災害時のことを考えると食べられるだけありがたいと感じました。十分な量でした、実際は、ここまで食料はそろわないと思うので、自分の準備が必要だと思いました。
量は少なかったが、避難を想定しているので、理解はできる。
十分すぎる配給があって、子どもたちはいつも以上にしっかりと食べていました。
私は、朝はパンとシリアルを食べているから、朝に「ごはん」の人は、物足りないと思います。
子どもたちが、率先して配給の手伝いを行っていたことが、とても良かったです。
栄養ドリンクより、水かお茶がよかった。
なんとなく、いただきます、の感謝の言葉がないとさびしいです。

⑨　今回の避難キャンプ全体での感想があれば書いてください。

→全体を通して、とても良くできていたと思う。
先生方のサポートがあったからできたのかな？
たくさんの協賛品があって、とても充実していた。
スタッフのみなさんありがとうございました。
鈴木さん一人で段取りしているようだった、もう少しスタッフを増やしたほうがいいのでは？
実際の避難生活を体験するいいきっかけでした。
初めての取組だったにもかかわらず、いろんなイベントが盛り込まれており、満足できた。
今後も実施されるなら、継続して参加して、防災意識がとぎれないようにしていきたい。
駅から学校まで歩くまでの間に、ただ歩くだけでなく、ゲームがあってよかったし、
消火栓の看板を見つけることが楽しかったようです。
先生方が参加してくださり、作ったりして頂いて、貴重な体験となりました。　今回の企画運営にこれだけの内容を準備するのは、本当に大変だったと思いました。
形だけの防災訓練が多い中、今回は内容がとても充実していたと思います。子どもたちは、みんなで協力すること、ＡＥＤ、公衆電話、消火器の使い方、せきらん雲、等々沢山の事を学ばさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。
気象庁の方のお話しは大変有意義でした。
いざという時に、何をすべきか、何をしてはいけないかを理解すること。
不自由なときに耐えること、工夫すること。そして、友達、地域社会の人と協力することについてちゃんと理解できた、きっかけを与えてくれたと思います。ただし、思ったより、快適な避難生活でした。不自由さはあまり感じませんでした。
鈴木さんをはじめ、スタッフのみなさん、先生方、関係者の皆様のおかげて有意義なキャンプになりました。心から感謝しております。
キャンプの最中に「実際は、こうではない」と恵まれた環境下での防災キャンプであることを伝えて頂きありがとうございました。
初めての取組とは思いますが、大勢の方が協力いただき、楽しく学ぶことができました。また、是非参加したいです。
イベント盛りだくさんで貴重な体験ができました。
食事の準備も参加者が行うほうが良かったのでは？
とても楽しく、貴重な体験をすることが出来ました。準備を進めてくださった方々には、とても感謝しています。
学校内の他の家庭は勿論、地域の人達、企業、団体等との関わりを持って、連携できるようにしておくことが重要であると思いました。
とても役に立ちました。
子どもたち（特に高学年）が率先して、避難所運営の手伝いを行っていたことが、ことに驚きました。来年もぜひ開催して欲しいと思いました。
気象庁の方の話もとても良かったです。別の機会にまたお話を聞きたいと思いました。
初めての試みなので、とても満足し感謝しています。次回もまたあるとしたらもっと現実的な厳しいものでもよいのでもよいのではと思います。（事故や色々な安全面など難しいかと思いますが）

寝袋しか持参しませんで
夜中、見回りをして
蚊取り線香が
差し入

とはないという人たちと、グループ活動を通して、子ど
協力したりでき、実際、ある日突然、近所の人々の協力し
出来たと思いました。

らどうしたいですか？

ならまた参加したいです。大人数だと考えてしまう。
みるとか・・・・

企画
員いた皆さん、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。今回のよう、
が充実したプログラムでまた家族全員で参加したいと思います。
毎年やって、陳腐化するよりは、みど小在校中に一度は参加ができるように、三年に一度程度是非実行して欲しいと思います。今度は、保護者がもっと駆り出して協力させるようにしてくださって、結構です。
カセットコンロで小グループでの調理を行ってみるのも良いと思いました。また参加します。
するべきと思います。
今回と、内容を変えてほしい。いろいろと学びたい。
参加するだけでなく、ご協力できることがあればかかわりたいです。
都合が会えば、参加したい。
今後も行ってみたい。
子どもたちが、いろいろ手伝ってくれていたので、次回は、子どもを中心とした調理ができると良いなぁと思いました。
楽しく学ぶだけどなく、子どもたちにも厳しさや大変さわ実感できるものになれば思います。

7　スタッフからの意見

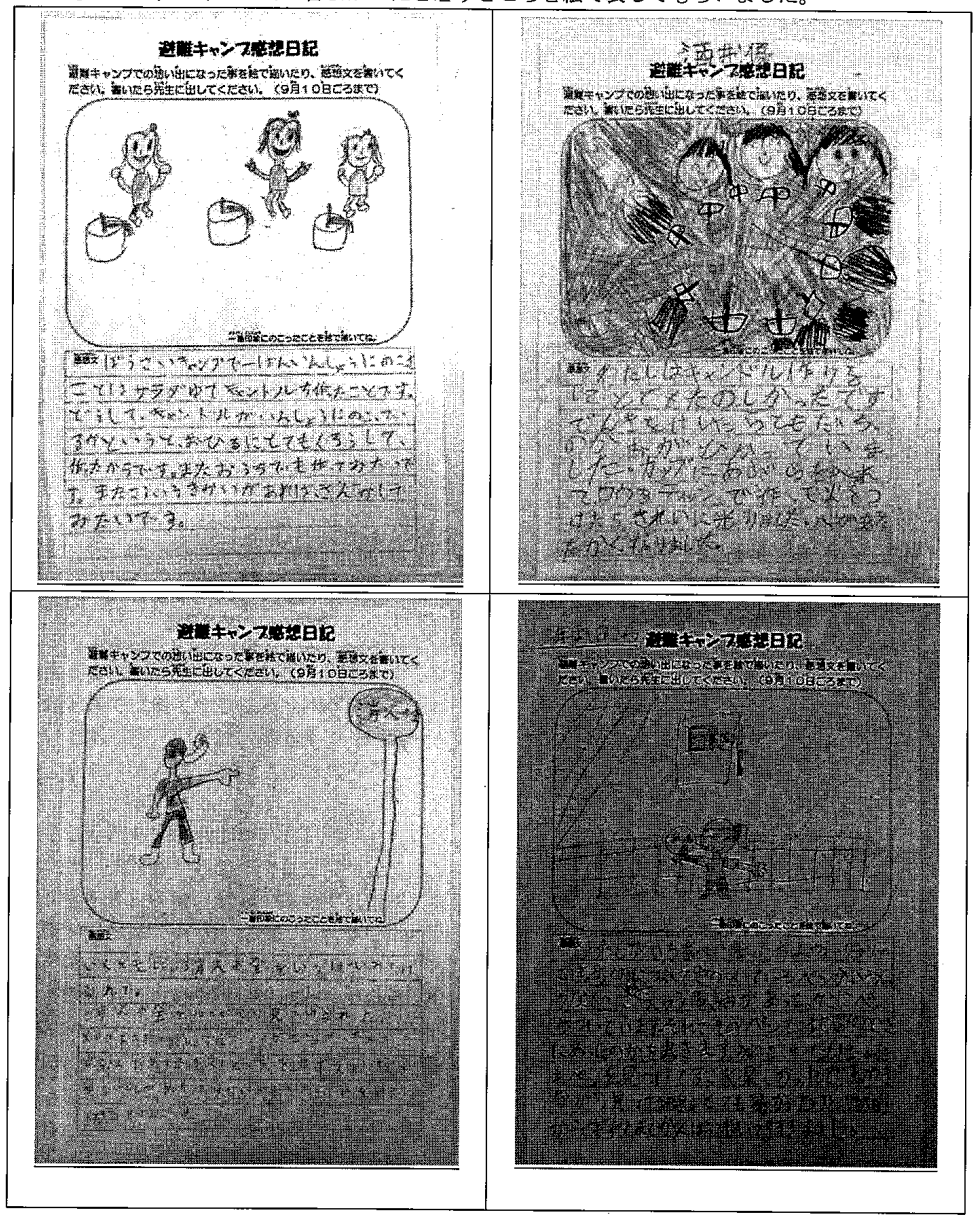
【キャンプを通して気づいたこと】

今回のキャンプで気づいたことはなんでしょうか？
キャンプでは準備万端ととのえて道具から何から何まで用意をして整えることよりも、ある程度の不便・不満足な点を感じるようにしました。防災訓練の事前の段取りが上手くいっていると作業効率もよく上手くいきますが、これはいわば当然のことです。もしも段取りがされていなくても「参加者がもともと防災などに関心をもっていれば、効率よくすすむ」ことに気づくはずです。今後の防災対策に何が必要なのか自分自身で気づいて欲しいと思います。

普段気付かない、設備や人との関係がよくわかった。
普段の調理方法と違うやりかたに戸惑った。
食器・キャンドル作りを通して、考えると色々なことができるのではないかと知った。
みんなと協力することの楽しさや、できることが増えることに気付いた。

2　子どもたちが感じた思い

子どもたちが、キャンプで一番よかったと思うところを絵で表してもらいました。



寝袋しか持参しませんで
夜中、見回りをして
蚊取り線香が
差し入

第五章　応用編

1　防災ｅマップ作成

避難キャンプを実施した過程によって、防災や３．１１の被害についてある程度情報を得ることができた。これらの情報を私一人だけで知っていても活用されないことから、何かに反映させるとともに、子どもたちが自分自身で守れるように知識を得てほしいと、作成をしました。

【情報収集について】

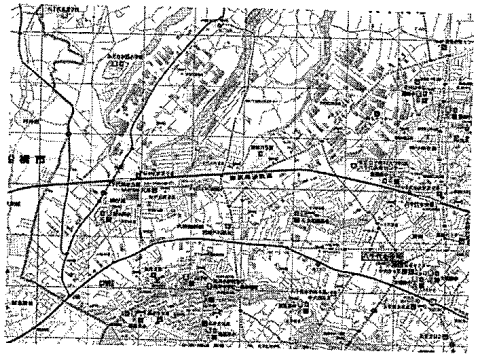
防災マップ作成については、みどりが丘小学校における子どもたちが作成した、防災マップをと入りいれることと、私たち自身の情報や、地域の人達から情報を取り入れることで作成することにした。

① 八千代市の防災マップから施設・情報をいれる。
② 子どもたち自身が見つけてきた危険個所などをいれる。
③ 地域の人達、自分たち自身が見つけてきた危険個所を入れる。
④ 他の団体からも情報を収集する。（他の学区及び役所でも違う部門から）

【作成について】

防災マップ作成については、紙ベースでなく、ネットで広く周知が可能として、独立行政法人防災科学技術研究所「防災ｅマップ」にて作成をすることとした。

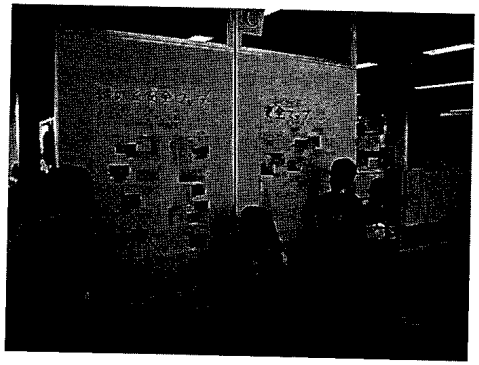
今回、防災について勉強すると、どうしてもこの「防災マップ」ついては、このシステムを使うことが簡易で操作しやすい事、さらに無料ときては使用することははばかることはないであろう。いずれ、小学生でも利用できるようシステムならなおさらであろう。



【子どもたちの視点について】

昨今、文科省から防災マップについてプッシュもあり、各地の教育委員会でも作成して事例が増加している。

学校では、昨年から四年生が安全マップとして危険個所などを調べて発表している。今回は、そのデーターを利用して作成している。特に池や河川（小川）などが子どもたちの視点から危険であるとしている。



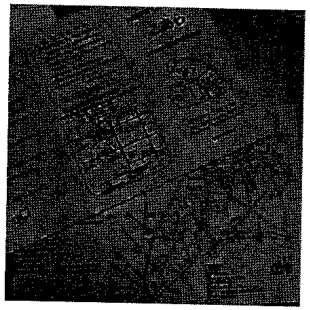
【他の地区からの意見聴取について】

８月６日に行われた、子どもサミット（八千代市内の公立中学校・小学校）が集まって会議を行いました。この中で、私たちは、高津・緑が丘地区での防災マップについて各学校からの発表を聞かせて頂きました。

このことによる、自校の学区内データーからより広くデーター収集が可能となりました。特に隣接小学校の新木戸小学校及び広くなる中学校区（みどりが丘小学校・新木戸小学校・西高津小学校・高津小学校）からの子どもたちのからの視点での防災データー（危険個所）については参考となった、そのため、浸水地区・危険個所などについて繁栄をすることが出来ました。

参加人数は、各学校から生徒が二名及び地域・保護者などが参加して２５名程度で、二チームにわけて行われた。

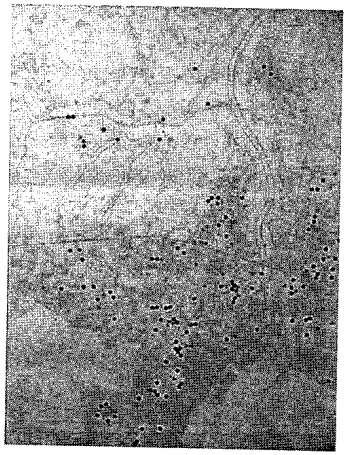
【子育て支援より情報交換】



高津・緑が丘地区の保育園関係者・八千代市の子育て支援課との交流会議に出席をして、防災について意見交換をしました。各保育園での備蓄状況などを聞き、各保育園での備蓄は対応がバラバラであることと、備蓄品は、現状の保育児があくまでも優先されることがわかりました。特に、今後問題となりそうなのが、八千代市の防災計画では福祉避難所として予定されているが、市から備蓄倉庫などの設置がされているわけではないこともわかりました。

今回は、子育て支援センターからは身近な避難場所とし公園として意見もあり、今回の防災マップに反映させることにした。

【教育委員会青少年センターより】



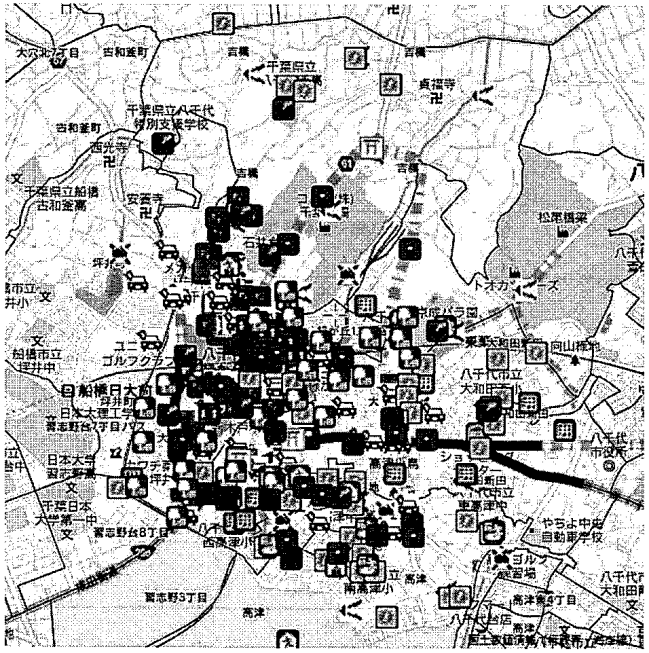
今回の防災マップに更に防災以外の視点からの考えも盛り込んで、多くの人に見て頂きたい思い、八千代市教育委員会内にある青少年センターで把握している。児童に対する、危険個所、不審者情報など

【防災ｅマップに反映した項目について】

	項目シンボル	項目名	備考
救急関係		病院	八千代市での把握されている病院、クリニック
		ＡＥＤ	設置個所
		災害時対応病院	八千代市で指定されている指定病院
避難関係		広域避難場所	災害マップ
		公園	子どもサポートセンターさんから
		神社	避難できる空地を備えているため
		一時避難場所	防災マップより
		福祉避難場所	八千代市避難計画より、ただし、準備は進んでない。
		自治会施設	マンション・自治会の集会施設
危険個所		不審者出没個所	八千代市教育委員会青少年センターより情報
		自動車事故発生個所	千葉県警察からの情報
生活支援施設		物資提供施設	大規模流通施設
		災害時用井戸	防災時提供井戸。ただし、非常用電源がないと使用できない。
		コンビニ	災害時に身近に物資が購入できそうな拠点
燃料施設		ガソリンスタンド	ガソリン供給施設、災害発生時は安全確認まで要注意
		ガススタンド（プロパンガス供給施設）	ガス供給施設、災害発生時は安全確認までは要注意
要注意個所		床下浸水個所	ゲリラ豪雨時において過去に床下浸水被害があった個所
		高所危険個所	高層建物・高架橋など地震には落下物に注意すべき個所
		頭上注意	３．１１際に実際落下があった個所
		危険区域	河川・池など注意個所

		倒壊注意	ブロック塀・擁壁など注意すべき個所
災害時対策設備		消火栓	防災キャンプから見つけ出した消火栓に、消防からのデーターを重ねた。
		防災スピーカー	防災マップ記載分と新規増設された防災用の屋外スピーカー
		公衆電話	３．１１の際に携帯電話がつながらないとのことで、公衆電話の位置を掲示した。子供からのデーターも含めて、ＮＴＴのデータも統合
道路関係		緊急輸送道路	千葉県から想定されている緊急用輸送道路、３．１１際は渋滞もした。
		災害時渋滞予想道路	３．１１の際の地元での聴取から判明した、渋滞した道路個所。通常の渋滞以上にひどくなった。
		災害時住民避難道路	地域の人達が避難した場合予想される道路、通学路とほぼ重なる。
		道路水没	ゲリラ豪雨時に実際あった道路水没個所。車両も水没して動かなくなる場合もあった。

【防災マップの状況】

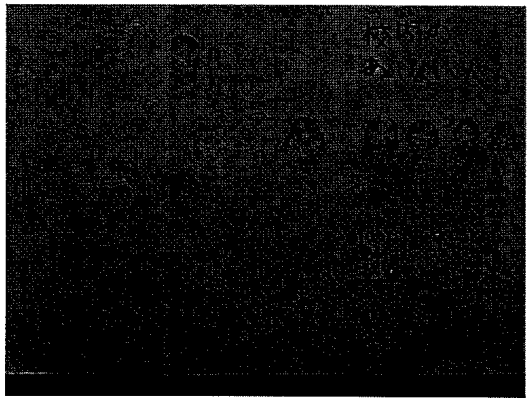


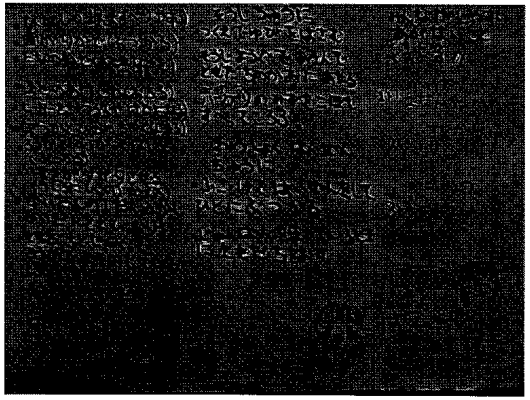
2　子どもたちが発信する安全作りへ

キャンプ後においては、４年生を中心として、まずは、校内の安全マップ（２学期）校外の安全マップ（３学期）に行うことになりました。

※昨年度においては、現在の５年生が作成して、地域の人達の向けて安全への取り組みとして情報発信をしました。

４年生は独自に学校内を見て回って、「ここが危ない」「危なくなるかもしれない」などを考えて身近な学校内を見て回りました。そして、下級生（１．２年生に対して）４年生が先生役となって、危険な個所などを教えてあげることにしました。子どもたちも、低学年が「わかりやすく」「楽しく」をモットーにしたようで、劇や紙芝居方式などで教えていました。



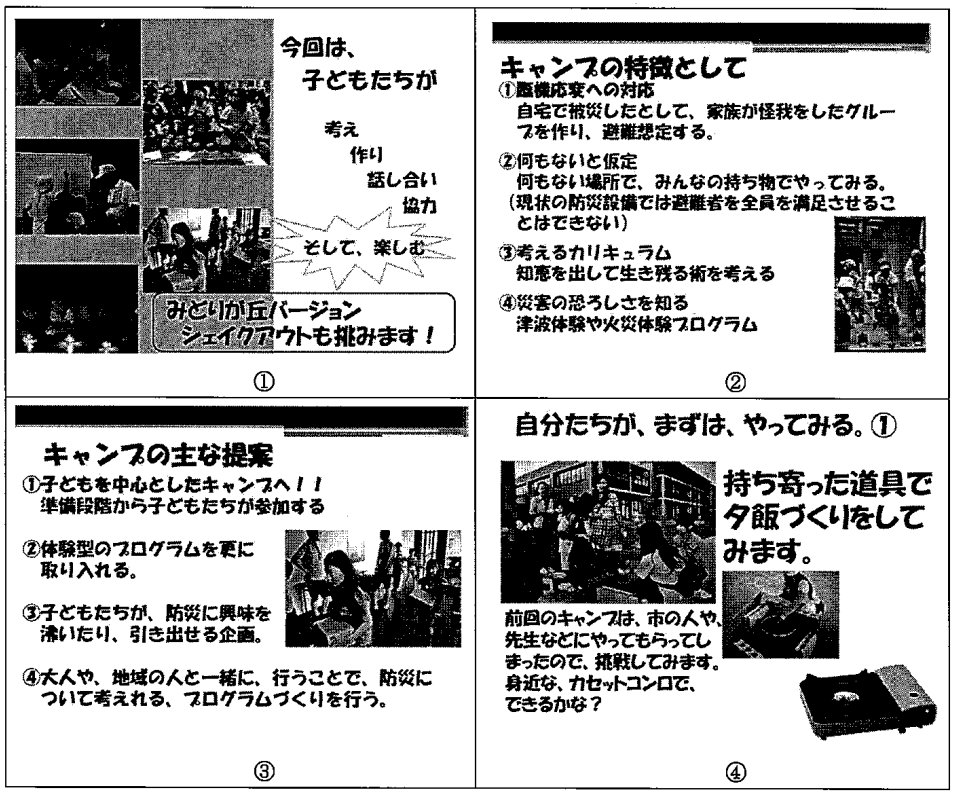


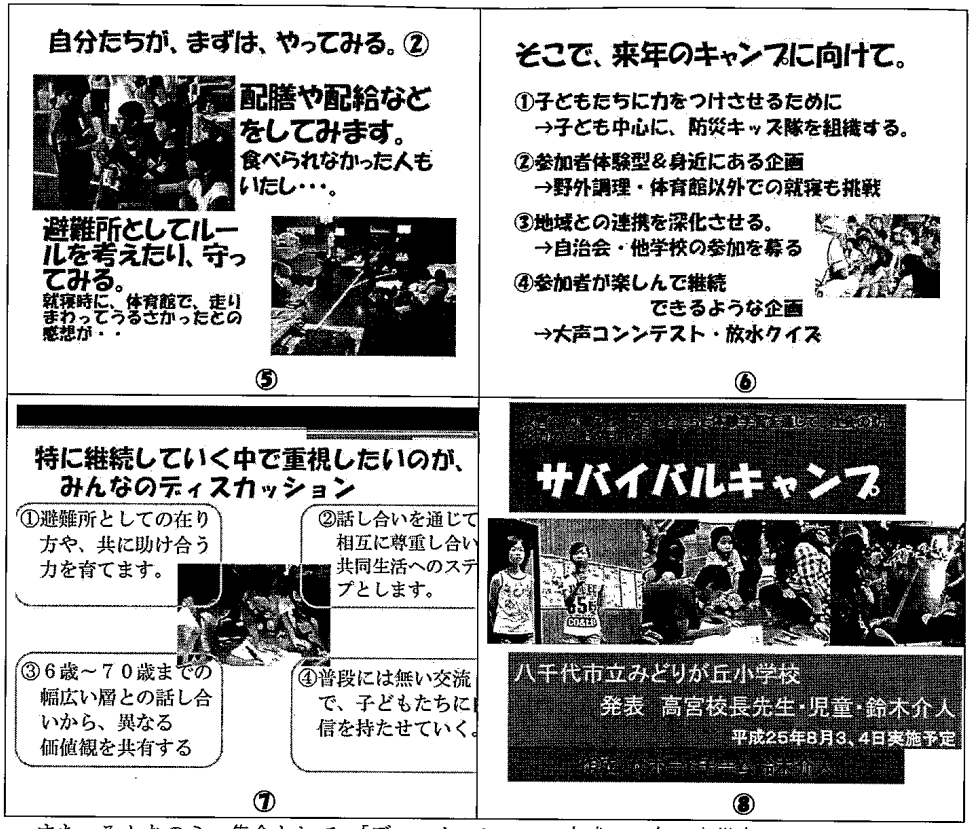
3　次の課題に向けて

1．　次年度への挑戦　（平成２５年度実施プレゼン資料）

来年度も本年度同様の内容を継承しつつ、子どもたちを中心に進めていくことを考えています。初心者のメニューから次のステップアップとしては、参加者自身がさらに、役割を担っていくこと、防災について考える輪を作りだしていくために、広く参加を呼び掛けて行くものです。

また、内陸部のため津波の被害などはありませんが、将来において、どの場所で何が起こるかわかりませんから、災害の恐ろしさを経験するために、津波・火事・地震体験メニューを行い、集団心理による被害を少なくすることを目指していきます。





また、みんなのミニ集会として、「ディスカッション」方式で、色々や災害について問いかけをしていくことで、「もしもの時の絆づくり」をしていきたいと思っています。

第六章　資料編

阪神淡路大震災からの報告
（抜粋）

【スタッフは必ず読むこと】

８月４．５日に行われます。避難所設営訓練を行います。通常においては、学校・行政機関などで行われる避難訓練は、時間もピシッと整然と行われるのが常ですが、今回は、色々な課題や問題をだしながら、親子で克服して避難所として設営まで行い、教職員・地域の人達と協力していくことが課題としています。ですから、通常の防災訓練とは違ったものになると思ってください。

① 子供には、探究・挑戦をさせることを目的とする。
② 私たち親は、参考資料がないなかで！皆さんで話し合って子どもの意見を導く
③ 自分自身で危険回避からグループで協力して乗り越えていく！

この書は、実際の避難所までのどのような事例があったのかをスタッフとして、共有することで、キャンプを成功に導くための資料の目的となっています。

【資料内容】

この資料は、内閣府教訓情報資料として整理され、幅広く一般の方に公開している資料を、地震発生時の７２時間を中心として、発生時から避難所の設営までについて抜粋したものです。

これらの事例は実際あったものです、もしも湾岸直下型があった場合は、私達はこの教訓を生かさねばなりません。家族や子供・地域の人達とどのように関わるべきなのかが、理解できるかと思います。

学校を中心とした報告についての抜粋

初動対応から（地震発生後初期７２時間を中心として）

一部　震災直後の学校での対応
二部　被害者行動
三部　救命救助
四部　緊急食糧・物資調達と配給
五部　避難所の運営と管理

【一部】被災地の教育委員会や学校園の初動体制も備えがなく、困惑の中でスタートした。

被災直後の学校園の対応としては、児童生徒の安否確認が最も重要な業務となった。

① 地震当日、交通機関全面麻痺状態のなか、多くの教職員は、バイク・自転車・徒歩で出勤した。出勤者数は全教職員9,847人の44.9%にあたる4,425人だった。各学校園はすぐに安否確認を始めたが、電話の使用不能個所が多く、十分な確認はできなかった。そこで教職員は徒歩あるいはバイク・自転車などを利用して家庭訪問を実施し確認に努めた。また、臨時登校日を設け、安否確認を行った学校園も多かった。

② ある学校では、正面玄関にノートを置き、自分のことのみでなく、知っている友達等の消息も書かせることにし、同時に同じようなノートを校区内数か所の避難所に置き、毎日教員が見てまわって、それをもとに後で電話開通後確認した。また、児童・生徒のグループが名簿等で調べ、情報を伝えてくれたという学校。ＰＴＡの役員が夜中まで詰めて調べ協力した学校もある。中学校では校区が比較的広いため、情報を集めるためにビラを貼ってまわり、学校へ連絡するよう頼んだ学校もある。

参考事例、このような形が保護者で求められる姿であるのか?役員以外の一般保護者にも協力が呼びかけで

学校園ではその他、安全確保、教職員の安否確認、避難所対応をはじめとする対応を実施した。

① 震災前、市の教職員数は9,847人で、そのうち家屋に被害を受けたのは4,862人、全体の49.4%にも及んだ。そして、教職員の安否確認は、通信・交通手段が途絶した中では、きわめて困難だった。震災当日に確認できたのは17校園（22.6%）に過ぎず、1週間目の1月23日にようやく323校園（93.6%）となり、最終確認は震災20日目の2月5日であった。

② 学校では避難所としての対応のみでなく、登校した児童・生徒に対する休校の指示を行う必要もあり、校長・教頭のどちらもが来れなかった学校で、なんとか出勤した教職員が判断に困ったという例がある。

自治体の災害対策本部のあり方や、災害対策に従事する職員に求められる能力等が提言されている。

①阪神・淡路大震災の対応経験者が感じた理想の人材像として、以下の個人属性が示されている。

（ア）　体力的・精神的に強靭である人
（イ）　個人的事情よりも仕事を優先できる人
（ウ）　その場で自分に何ができるかを考える人
（エ）　全体像を把握した上で仕事ができる人
（オ）　自分の判断で迅速に事態に対応できる人
（カ）　声の大きい人
（キ）　誰とでも対等に渡り合える人
（ク）　コミュニケーション能力が高い人
（ケ）　周りの人の動きがちゃんと理解できる
（コ）　調和が取れている人

すべてが備わっている人はいない。チームによって、危機を乗り切る必要がある。

３．１１の市職員の役割は、ここまでの達成は無理だった。停電と水の供給について事例１新木戸の事例

① いろいろなタレントを組み合わせてうま

② 同じような人間を避難所に送ったとしても、ある人は何とかして皆さんを安心させてあげたいと考えて行動する。別の人はこちらから言われたとおりのことしかしないから、連絡要員にしかならない。しかも、連絡要員としても、ただ聞いてきてそれを伝えるだけ、あとのことは知ったことではないという態度だとすると、その差が避難所の運営に大きく表れました。

③ 情報を流す立場にたって、避難勧告を出した、通行止めにしたということで胸を張る人もいます。しかし、どのような指示を出して、相手とのコミュニケーションができていなければ、全く無視されてしまうだけです。避難勧告を出しただけで市民が避難し、車を通行止めにしただけで車の乗り入れをやめるわけではないのです。情報を流す場合に、コミュニケーションを通して相手がどう受け取るだろうかまで理解して対応する力は、現場で訓練されて勉強になりま

なかなか、難しいと思う。家族でさえ時折、困難なことがある(笑)

した。

事例1

3.11の際に置いて、学校側は、避難所として運営されたが、断水による飲料水およびトイレが断水による、ところかまわず、排泄物されるようになってきた。そのため、学校側は八千代市に対して、水の供給確保を要望した。連絡された側は、要望内容を考えずに聞きいれたために、給水車が来たが、実際は、イオンからの飲料水が確保されたために必要とせず、あとは、トイレの水の確保であったのである。連絡体制及びどのよう情報を的確に伝えるべきかが出す方・受ける方にも課題である。

【二部】被災者行動

被災地域の約５割の住民が避難行動を起こし、大半が近隣の学校施設に避難した。

① 震災当日の宿舎として自宅を挙げた人は約６割にすぎず、学校などの公共的施設（18.4%）など自宅外で宿泊した人が約４割にのぼっている。

避難者の多くは、近隣の小中学校、高校等の学校施設など、公共施設へ避難した。

① 避難者総数に占める小中学校避難者数の割合は、兵庫県全体で7割近くにのぼっている。被害の大きかった神戸市旧市街地（東灘・灘・中央・兵庫・長田・須磨南部）では、97.3%の学校園が避難施設となった。

八千代市では、２５％の割合で避難予想、四万人程度。

② 避難者が避難場所等を選択した理由として最も多いのは「安全な場所だと思ったから」であり、以下「自宅に近いから」「避難所として指定されていたから」「公共の施設だから」「近所の人がそこに避難するので」等と続いている。

避難所の７割が当日に開設されたが、被害の大きかった地域では、市・区職員や教職員の到着が間に合わず、避難者が鍵を壊して入り込んだところもあった。

① 神戸市教育委員会によると、地震発生から約1時間後（午前7時頃）に最低1人の教職員が到着した学校は全体の4割強、約2時間後（8時頃）では9割弱。地区別では、被害の大きい地区（神戸市東部～東灘区、灘区、中央区等）ほど教職員の到着が遅れた。

② 教職員が到着した時点で避難者がいた場所は「運動場」が最も多く、運動場の避難者を教職員等がまず「体育館」等に誘導し、その後の状況に合わせて「普通教室」等を随時開放するという手順が一般的であった。管理者等が到着する前に「すでに校舎内に入っていた」という学校等も53校あり、そのうち17校（34.7%）では避難者自身がドアやガラスを壊して校舎内に入ったと報告されている。

教職員ではなく、学校開放担当者や鍵を預かっている人などの近隣住民が、自主判断で校門や体育館等を開錠したというケースもあった。

① 学校開放管理者が鍵を開けたり、非常災害に備えて鍵を預けていた近隣の人が明けたりした例も報告されている。

② 震災災直後、学校は避難する住民でごったがえしていた。校門は開放委員の手によって開錠され、教頭がかけつけたときには校舎内に避難を始めていた。

多くの避難者が殺到したため、一人あたりのスペースは狭く、教室や体育館などの居室はもとより廊下や階段の踊り場なども避難者で一杯となった避難所があった。

①３月下旬の東灘区内の調査結果からは、避難所における個人占有面積は一人当たり1～3畳程度が半数であり、平均1.9畳だったとされている。

① 神戸市立本山南中学校）体育館は避難者で一杯になり、校舎の教室などにもすでに避難者が大勢いた。避難者は、体育館、教室（机も椅子も外に出して住んでいた）のほか、一階の渡り廊下にもいたしグランドにもテントを張って生活していたし、体育倉庫にも中の用具を出して入って生活する人もいて、約3,000人住んでいた。

③（神戸市東灘区・神戸市立福池小学校）午前８時、教職員が保健室を片づけ、救護所としての機能が果たせるように準備。遺体安置室は、当初、長椅子のある理科室としたが、遺体が増え安置しきれなくなったので、２つの普通教室も遺体安置室とする（計19体）

震災直後には、避難者の中に負傷者も多く、その看護を教職員や避難者の中の医療関係者が行ったり、医師の派遣を受けて応急手当が行われた避難所もある。

① 被害の激しかった地域では、避難所であった学校に重傷者が運び込まれたところが多かった。おもに保健室にはけがの治療に必要な薬品が備わっているとの認識があるからである。しかし実際は、学校に重傷者に対応する医療器具や薬品などの備えがあるわけではなかった。このような状況の中で、応急手当は避難者の中の医師らが行い、その補助も避難者の中の看護婦があたった例が多い。

② 当時、震災で怪我をされた方が大勢いたが、近くの大病院が満員で、骨折ぐらいでは返されてしまう状態だった。そういう負傷者が避難所に来て、寝ていただかなければならないので、先に入っていた方に場所を変わってもらったり、出てもらったりするのに大分苦労した。病院に行っている間に他の人が入ってしまう状況だった。

今回の、ウォークラリーでの応急処置訓練がこのような事例対処となる。

震災直後の避難所は、高齢者や要介護者に対する配慮が十分に行われず、きわめて厳しい環境におかれた。

① 避難所の生活でも、高齢者は一番の犠牲となった。避難所の通路や階段の踊り場には飢えと寒さに震えるお年寄りが溢れていた。足腰が弱い高齢者が、避難者がひしめきあう間をぬって、校庭のはずれにある仮設トイレまで歩いていくことは難しい。仮設トイレの段差も上りにくい。トイレの回数を控えるために、水分を取らず脱水症状を起こして病院に運ばれるお年寄りもいた。配給の食事はどれも固く冷たく、お年寄りは食べることができない。偏った食生活から体調を崩すお年寄りも多かった。避難所に設置された救護所で診療を受けるにも、長い行列に並ばなければならない。自分の足で歩くことすら困難な高齢者が、どうしてその列に1時間も並ぶことができるだろうか。

② 一般の高齢者にとっても避難所生活は次の点で厳しい環境であった。

- 避難所内での安全なスペースの確保ができない
- 厳寒期の無暖房
- 一般成人向きの食事
- 夜間頻尿への配慮不足
- 抵抗力の弱い身体状況への保健衛生等の配慮不足
- 物資・食事等の配給方法

③ 避難指示や警告、生活に必要な説明などの情報伝達が音声や文字表示の単一方法で提供され、また日本語のみの伝達であったことなどにより高齢者、障害者、外国人はどのように行動したらよいのか分からない状況であった。例えば、聴覚障害者は避難所である小学校において、救援物資の配給情報が校内放送により音声のみで伝えられたため、食料や水などの入手ができなかったり、自宅の損壊状況の判定調査員の説明が理解できないまま、一方的に判定が行われるなどの状況があったことが報告されている。また、避難所での行政ニュースは掲示板によることが多く、視覚障害者は自律的な行動を行うための情報が得られなかった。

【四部】　緊急食糧・物資調達と配給

発災直後、避難所にはわずかな食糧・物資しか届かず、配給は騒然となった。

① 神戸市と西宮市において1月17日から1月31日までの推定避難人員1人当たりの物資配布数の推移を示したものが図4.9.1である（毛布は累積）。これによると、地震が発生した1月17日から20日頃までの間は、避難者にとって食料、毛布とも不足気味であり、神戸市では食料、西宮市では毛布の配布数が少なかったことがわかる。このような状況に陥ったのは、十分な備蓄物資がなかったこと、義援物資の受け入れに忙殺され配布までに手が回らなかったこと、正確な避難所数や避難者数の把握が遅れたこと、物資配布のため[illegible]格が極端に渋滞していたこと等々の要因が考えられる。

訓練では整然とできるが、いざ実践ではどうなるのだろうか？

② （兵庫県立兵庫高校）夜、避難者一人につきパン１個を教職員が配布しようとしたが、全員に行き渡らない。配給時には混乱し、制止もままならない状況で、配給している教職員の胸ぐらをつかみ「もっともってこんかい」と怒りをぶつける避難者もいた。

③ （神戸市長田区の蓮池小学校）午前七時に、おにぎり千食が用意されたが、あっという間になくなった。同八時にはカンパン千二百食が配布されたが、列を作った全員には行き渡らず「不公平だ。整理券を配れ」と職員の詰め寄る住民も。

④ 交通事情の混乱のために場所によっては大幅に物資の搬入が遅れ、避難所では当初大きな混乱が起きた。1000人以上の避難者がいたのにかかわらず、17日夜までに握り飯150個、リンゴ2箱しか届かず、不足しすぎているため翌朝まで配分できなかった例。18日になってパンなどが届き、民生委員や自治会役員等に世話を頼んで配分したが絶対数が足りないためにパニックになった例。17日夜、パンなどが届き、個数は十分あると判断して校庭に並んでもらったが列がいつまでも途切れず、最後には半分にしたがついになくなり、子どもが持っていたパンを大人が奪い取って行ったり、配給していた教職員が蹴られ危険な状態になったという例など、当初の食糧配給時に大混乱になったところが多い。

⑤ （神戸市灘区・神戸市立烏帽子中学校）18時、おにぎり弁当150食分とリンゴ２箱が届くが、とても避難者に行き渡らないので、パニックを避けるため明朝、配ることになった。

⑥ （神戸市長田区・神戸市立志里池小学校）夜、区災対本部からコッペパンとゆで卵が届く。一人一個は到底行き渡らないので、元PTA会長等が中心になって数人でちぎって配布することにした。

⑦ （西宮市立安井小学校）夕方、初めておにぎりの差し入れ（490個）が届いた。しかし、避難者が1,000人を超えていたので、老人と子どものみに配布する。

⑧ まず、各家庭からカセットコンロを出してもらって、食事を調理した。男は寝られる場所を作るために大掃除をした。１日目は食べ物は個人で何とか入手したが、2日目は1人千円を集めてまとめて市内と大阪に買出しに行った。市内の大型店は大変な混雑で、大阪に行ったグループのほうが先に戻ってきたくらいだった。

【六部】　避難所の運営と管理

実際の時には、学校側の心構えが必要となる事例である。

神戸市立の学校園では、避難生活が軌道にのるまでの間、避[illegible]が活動した学校等は８割以上に上り、校園長や教頭がリーダーとしての役割をとる場合も多かった。

① 避難住民の生活が軌道に乗るまで、避難所運営のリーダーとして校園長、教頭、その他の教職員の少なくともいずれかが活動したと答えた学校園の数は178校であった。避難所として利用された学校園は218校であったから、81.7%で教職員がリーダー的な役割を担ったことになる。ま

た、...（中略）...校園長や教頭がその任に当たることが多かったことがうかがえる。

② 地震直後、着のみ着のまま学校へ避難してきた多くの住民は、恐怖のショックにより、ほとんどが茫然自失あるいは無気力の状態であり、これらの人々をいかにして勇気づけ、組織化し、自立させていくかが重要な課題であった。［『震災を生きて－記録・大震災から立ち上がる兵庫の教育－』兵庫県教育委員地震直後、着のみ着のまま学校へ避難してきた多くの住民は、恐怖のショックにより、ほとんどが茫然自失あるいは無気力の状態であり、これらの人々をいかにして勇気づけ、組織化し、自立させていくかが重要な課題であった。

③ その学校には火災に追われ、校区外からの避難者が多かった。先生たちは、なじみのない住民と接することになった。･･･（中略）･･･不眠不休で避難者と接した先生の言葉が忘れられない。「これだけ頑張っている、と示して信頼されんと、何が起きるかわからんかった」･･･（中略）･･･

行政から責任者が着任する以前には、校長に大幅な権限を移譲しておくべきという意見もある。

①まだ避難所と指定される以前の時期、校長の役割は非常に大きく、そのために、避難所の平静が保たれたことはすでに述べたとおりであるが、校長には何の権限も与えられていない。人数を把握するために名簿作りをしようとしたが、プライバシー侵害と反対が起き、正確な人数を把握できなかったところもあった。争い事が起きても、命令を出したり、迷惑な者を排除することは出来なかった。避難所として指定され、行政から責任者が着任する以前には、校長に大幅な権限を移譲しておかないと、避難所としての運営がスムーズに進まないことがあり、当初、権限を与えておいてもらいたいという校長が多かった。

施設管理者を中心としつつも、避難者有志がボランティアとして発災当日から管理運営に携わった例もあった。

① 避難者自ら志願して職員室へ十数人のボランティア集まる。

② （芦屋市立宮川小学校）朝、出勤できた教職員は、校長、教頭を含めて７人。地域の人達が自発的に協力をはじめ、避難所運営に校長中心の流れができた。

当初から地元自治会や消防団等が管理運営の中心となった例や、地域全体で自主的に避難者対応を行った地域もある。これらの事例は、普段から地域のコミュニケーションが密であり、コミュニティが熟成している地域、学校開放などが行われていた学校にみられた。

① （北淡町立野島小学校）運営主体は当初は自治会1名と消防団・婦人消防隊15名で町職員3名であり、教員は避難所運営には関与しなかった。

③ 真野地区（神戸市長田区）では、地域全体（約2,500世帯）で、小学校、保育所、児童館、集会所、企業体育館等、計16箇所の避難所等が自然発生的にできた。当日、役員等が区役所と連絡を試みるが、役所からの配給等がないことが分かり、連合町会として一括して、全地域分の緊急物資を長田区役所に取りにいく。区役所の混乱状態を見て、弱者にも物資が行き渡るようにする必要を実感し「この地域は一元的に取りに来るので段取りをしてほしい」と区役所に要求。米、かんぱん、毛布などの物資を積んで地域に戻り、配給した。

③吾妻小学校は以前から学校開放をしていたからか、地域のまとまりがしっかりとしていた。いい面と悪い面もあるが、震災後も学校開放の責任者が市役所の災害対策本部にも行って情報を入れていた。避難所生活においても地域の人がリーダーとなって多くの面でボランティアをしていて、避難された方々のお世話をしっかりしていた。

④小・中学校が避難所になった場合、避難者の中には当該学校の卒業生やＰＴＡ会員が含まれ、ま

た、地域開放による学校利用者も含まれていた。学校と地域・社会との関係が密接な場合は、コミュニケーションをとるのが容易であり、組織化もはかりやすかったようである。

各避難所では、徐々に生活ルールが決められていった。

① 近所に住んでいながら顔も知らない人もいるので、入所する人にはルールの遵守を求めた。個人宛ての見舞いも全員で分けることや、争い事を起こしたら即刻退出してもらう、住所、氏名などを記入してから入所してもらうようにした。

② 避難所で配布する際は、並ばせないようにした。並ばせて物を渡すと、困るのは障害者やお年寄り、赤ちゃんを抱えた人である。だから、班分けしてその班の代表者に物資を渡し、班の中で分けてもらうこととした。

参考文書

『阪神・淡路大震災　神戸市立学校震災実態調査報告書』神戸市教育委員会

『阪神・淡路大震災と神戸の学校教育』神戸市教育委員会

『阪神・淡路大震災神戸の教育の再生と創造への歩み』神戸市教育委員会財団法人　神戸市スポーツ教育公社

『阪神・淡路大震災における避難所の研究』柏原士郎・上野淳・森田孝夫・編大阪大学出版会

『阪神・淡路大震災　神戸復興誌』神戸市

『阪神・淡路大震災　被災地“神戸”の記録』1.17神戸の教訓を伝える会

『阪神・淡路大震災　復興１０年総括検証・提言報告　社会・文化分野』兵庫県・復興10年委員会

『阪神・淡路大震災　芦屋市の記録'95～'96』芦屋市

『阪神・淡路大震災　兵庫県の１年の記録』兵庫県知事公室消防防災課

『阪神淡路大震災　避難所・ボランティア本部の運営システム及びボランティア活動に関する調査研究　平成7年兵庫県南部地震都市災害緊急実態調査　』まちづくり計画研究所

『阪神淡路大震災　避難所・ボランティア本部の運営システム及びボランティア活動に関する調査研究「平成7年兵庫県南部地震都市災害緊急実態調査」まちづくり計画研究所

『阪神・淡路大震災における避難所の研究』柏原士郎・上野淳・森田孝夫・編大阪大学出版会

『阪神大震災研究１　大震災100日の軌跡』渥美公秀・渡邊としえ「避難所の形成と展開」神戸新聞総合出版センター

『平成10年度防災関係情報収集・活用調査（阪神・淡路地域）　報告書』国土庁防災局・（財）阪神・淡路大震災記念協会

『平成11年度　防災関係情報収集・活用調査（阪神・淡路地域）報告書』（財）阪神・淡路大震災記念協会

『震災を生きて－記録・大震災から立ち上がる兵庫の教育－』兵庫県教育委員会

『震災10年　備えは　その時どうする　避難所』〔神戸新聞記事「物資配給など不眠不休だった先生」

『震災時のトイレ対策　－あり方とマニュアル－』震災時のトイレ対策のあり方に関する調査研究委員会（財）日本消防設備安全センター

『大都市と直下の地震・阪神・淡路大震災の教訓と東京の直下の地震』吉井博明・塩野計司

『大規模地震時における避難所のあり方に関する研究報告書』尼崎市・（財）あまがさき未来協会

『自然災害科学　阪神・淡路大震災　緊急対応特集号』宮野道雄「避難所の生活と運営」　日本自然災害学会

『真野まちづくりと震災からの復興』阪神復興支援NPO　編　自治体研究社

『地震と社会（上）』みすず書房外岡秀俊

『昨日のごとく　災厄の年の記録』中井久夫　他みすず書房

『減災Vol. 1』伊藤ゆかり「阪神・淡路大震災以降の医療施策の動向阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

『［農林水産省中国農業試験場　監修『都市型災害と農業・農村－阪神淡路大震災の食糧供給・農業への影響－』農林統計協会

『あのとき避難所は　阪神・淡路大震災のリーダーたち』松井豊・水田恵三・西川正之　編著ブレーン出版

『都市政策　no. 82』（［藤井良三「震災時の救援物資の配布」財）神戸都市問題研究所

1 マスコミ掲載

千葉テレビ

千葉日報

八千代市広報

ミニコミ　よみうり八千代

その他、ガス業界紙に４紙掲載され、ガス発電機の使用などがＰＲされました。

第七章　あとがき

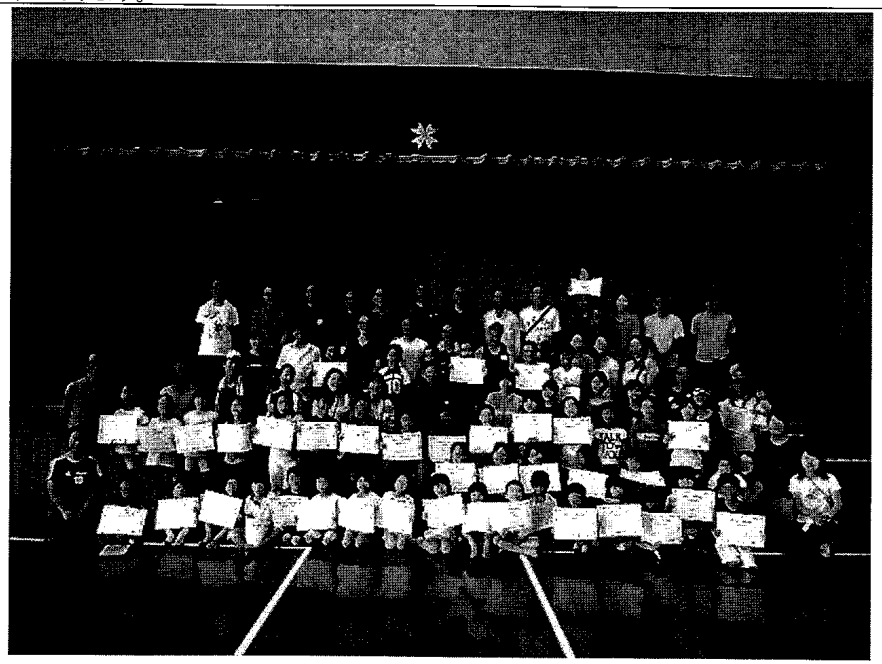
みどりが丘小学校防災キャンプ参加・物資提供して頂いた関係先

＆感じた感想を・・・・・・敬称略

みどりが丘小学校教職員　参加、プログラム参加、撮影、ビデオ編集
（男子チームの寝ない体力に脱帽、深夜のカップラーメン美味しかった。北田先生のビデオ編集ありがとうございました。）
みどりが丘小学校保護者会　プログラム作成、編集、近隣企業挨拶
（会長の挨拶周り助かりました。マニュアルの確認及び当日のスタッフありがとうございました）
八千代市総合防災課
（私が色々走りすぎましたが、立派なチームでした。斉藤さん、大澤さんサンクスです。）
八千代市青少年相談員連絡協議会
（山内さん、当日や準備手伝いをしていただいて助かりました）
千葉県（起震車）
（子どもたちが体験できたことは良かったです。ビデオ映像も○でした）
緑が丘自主防災（自治会）
（私の企画に、賛同としていただくともに、当日の子どもたちの防災について対話よかったです。安心して背中を向けていましたし、力強い言葉ありがとうございました。隊長、副隊長！！）
ちばコープ
（無理を言って協力をしていただきました。パン美味しかったです。）
サイサン
（なれない防災訓練でしたが、ブロックやガスの件では臨機応変に動いていただきました。また、新型ガス発電機は活躍しそうですね。）
石井食品
（もしもの時にミートボールが活躍することがわかりました）
利根物流サービス
（このような非常時においては、水が貴重品でした）
トライアル
（就寝用の段ボールを無理に言って集めて頂いて、助かりました。みんなの感想は、体育館の床が痛くても、段ボールを引くことでやわらぎました）
八千代市水道局
（八千代市の水が調理時に役立ちました。）
社団法人千葉県消防設備協会
（ウォークラリー時のクリップボートありがとうございました）
八千代市医師会（代表緑が丘小児科クリニック）
（防災というと、赤十字でしたが、今回は医師会にお願いをしました。いきなりのお願いでしたが、ありがとうございました。）
八千代市防災設備協同組合
（ザオー消防設備　旭陽電機　防災技術センター　八千代防災設備　笠井商会　新衛設備　ニッショウ　竹森電設　大英電業社　北原防災）（炊飯袋提供ありがとうございました。）

最後に

多くの人達の協力の上で、今回は、「みどりが丘小学校避難キャンプ」を無事終わることができました。私は、3.11の経験から早期に地域の人達と、地道に防災について考える機会として、このキャンプを企画しました。今日においては、東日本大震災における記憶の風化が始まっているのも事実でありますが。私としては、少しでも地域の防災対策の記録とし本書を作成しました。
今後とも本書が地域の人達や、学校の防災の取組として役立つことを願っています。
なお、写真物などが多く掲示されていますので、掲載する場合などは必ずご連絡を頂くようお願い申しあげます。



本書に作成をしていただいた関係者
主筆　みどりが丘小学校　学校支援委員会　環境整備部　代表　鈴木　介人
（平成２５年度よりサポートチームに名称変更します。）
midori.challenge@gmail.com　　携帯　０９０－３００３－９６７７
八千代市立みどりが丘小学校　校長　高宮　昭裕
みどりが丘小学校　保護者会会長　阿部重則
みどりが丘小学校保護者会本部　一同